第44回国民体育大会
涼しい北海道に熱い闘いを展開

第44回国民体育大会ハンドボール競技は、9月18日から22日まで札幌市、江別市の会場を使って、成年男子1部、成年男子2部、成年女子、少年男子、少年女子の5部門に各都道府県代表が熱戦を展開した。以下、各部の熱戦の様子をご紹介しよう。

成年男子1部／埼玉が優勝

1回戦

沖縄 27（13－12、14－14）26 石川
（パームヒルクラブ）（全石川）

〔戦評〕沖縄はやや高さに勝る石川のディフェンスに対し、1対1、足を使ってのずらし、上下左右から繰り出す変則シュートの攻撃。石川はミドルシュート、ポストプレー、サイドからの攻撃。沖縄はゲーム開始早々、PT、ノーマークシュートとたて続けにはずし、リズムに乗り切れないかに見えたが、徐々に調子を取り戻し、お互いに速攻もよく出し、全く互角の試合だったが、1点差で沖縄が制した。

得	〔沖縄〕		〔石川〕	得
0	長嶺	GK	竹中	0
0	新城		北村	0
2	黒島	FP	土山	8
13	東江		福田	3
4	名嘉		真田	5
4	新垣		関戸	0
0	宮里	（審・田村、斉藤）	園下	3
1	高良		澤田	1
1	内原		北岡	1
0	新里		西田	4
2	喜舎場		岡	0
0	宮城		中井	1
27	(1)	PT	(3)	26

岩手 27（14－5、13－16）21 岐阜
（花巻ク）（岐阜教員）

〔戦評〕前半、両チームとも堅い守りで10分まで岩手の3－1とロースコアで進んだが、10分過ぎから岐阜のミスをついた岩手の速攻が出だし、攻守のかみ合いが取れてきた。谷藤、中島のロングも決まり、次第に点差が開いた。岐阜もフェイントからのカットインなどで対抗するが、岩手GKのファインプレーに阻まれなかなか得点できず岩手の14－5で前半を終る。

後半、加藤のロングが決まり始めると岐阜もリズムに乗り、速攻、カットインで15分過ぎには4点差まで詰め寄りあわやと思わせたが、終盤岩手が速攻で再び引き離した。

得	〔岩手〕		〔岐阜〕	得
0	鎌田	GK	野田	0
0	多田		加藤	0
3	谷川	FP	名倉	2
6	中島		飯島	2
2	及川		近藤	0
1	大沢		林	5
0	山口	（審・倉本、山辺）	加藤	6
4	吉田		鈴木	0
4	谷藤		上野	1
2	小田中		西尾	0
3	柏舘		高橋	5
2	岩角			
27	(2)	PT	(2)	21

山口 29（14－13、15－14）27 鹿児島
（山口教員団）（鹿児島ク）

〔戦評〕立ち上がりロングの打ち合いで互角の展開であったが、脚力に勝る山口は角の活躍で一歩リード。しかし、鹿児島も池ノ上のロングで追い上げ、14－13と1点差で前半を終了。

後半に入っても流れは変わらず一進一退の展開であったが、山口が20分すぎに追いつくと一気に逆転、そのままリードを保って逃げ切った。

得	〔山口〕		〔鹿児島〕	得
0	吉村	GK	西	0
0	古谷		石原	0
3	飯島	FP	池ノ上	10
7	橋本		亀沢	0
3	吉兼		富山	4
9	角		山川	1
0	岡村	（審・加藤、中村）	重吉	0
3	原井		加藤	0
3	中村		上村	1
0	白川		安田	0
0	倉谷		積	7
0	片山		大重	4
29	(3)	PT	(2)	27

熊本 31（16－12、15－16）28 大阪
（本田技研熊本）（大阪教員ク）

〔戦評〕大阪、熊本ともに1・5ディフェンスから速攻、カットインを主体に攻撃するチーム。熊本は相手から速攻につなげ、熊本ペースの展開で、前半16－12で4点

得	〔熊本〕		〔大阪〕	得
0	中尾	GK	伊藤	0
0	宮本		高橋	0
0	矢野	FP	裕	3
2	荒田		尾崎	6
6	三代		前出	3
7	松村		佐々木	1
0	田中	（審・横瀬、矢澤）	高原	0
0	山口		小池	0
6	川崎		谷口	3
2	村田		狩野	0
8	田中		前田	4
0	堀内		山崎	8
31	(0)	PT	(3)	28

リードで終了。
　後半、大阪もコンビが合ったし、ポスト、サイドから反撃し、残り7分で25―25の同点とし、白熱した試合になるが、個人のシュート力で上回る熊本が31―28で逃げ切った。

東京（三陽商会）29〔13―7、16―10〕17 富山（全富山）

〔戦評〕東京は立ち上がりスルスルと2得点しうまい滑り出しを見せたが、その後の浮かしシュートを3本連続ミスをし、自らを苦しくした。富山はきの機にうまく得点をあげ互角にもちこむ。しかし力で勝る東京がじりじりと引き離し前半を終了。
　後半も同じような展開を見せた。富山はGK須波が好守を見せ頑張ったが、東京の波状攻撃の前に涙を飲んだ。

得	〔東京〕		〔富山〕	得
0	宇田川	GK	桜打	0
0	吉田		須波	0
7	濱川	FP	中山	1
4	飯島		中浦	1
0	田口		沢井	0
3	大坪		栗山	1
3	近藤		西田	1
5	山口		矢田	2
7	浜田		中原	1
0	関		金原	7
0	吉原		上田	2
0	河村		堀川	1
29	(2)	PT	(3)	17

（審・鈴木・大和）

秋田（湯沢ク）28〔12―12、16―13〕25 奈良（わかくさク）

〔戦評〕両チームともパスミス、シュートミスが多く、得点と失点をくり返し、12―12の互角で前半を終了。
　後半に入っても同様な展開であったが、秋田は後半なかばに4連続得点し、この試合の主導権を握った。奈良も最後までよく粘ったが、中盤の連続失点が響いた。

得	〔秋田〕		〔奈良〕	得
0	大沼	GK	糀	0
			大谷	0
2	石山	FP	佐々木	4
4	高橋		森本	0
0	古関		矢野	0
1	高山		小林	3
0	近野		上田	1
7	高橋		金丸	10
3	渡部		村田	2
0	菅		菅沼	1
11	佐藤		谷	4
			田中	0
28	(1)	PT	(2)	25

（審・田村・斉藤）

2回戦

埼玉（大崎電気）34〔16―12、18―9〕21 沖縄

〔戦評〕前半、埼玉が多彩な攻撃で着実に得点をあげるのに対し、沖縄は全員よく動き、走り、速攻、ポストプレーで得点をあげ、16―12と4点差で前半を終了した。
　後半に入ると、ディフェンスを固めて一気に勝負に出た埼玉が10分間で10点差にし、その後も着実に得点をあげて沖縄を突き放した。

得	〔埼玉〕		〔沖縄〕	得
0	矢内	GK	長嶺	0
0	渡辺		新城	0
2	松岡	FP	黒島	3
2	大和田		東江	3
5	武田		名嘉	1
5	首藤		新垣	2
2	中田		宮里	2
6	山本		高良	2
4	甲斐		内原	0
3	菅田		新里	1
2	相馬		喜舎場	7
3	宮下		宮城	0
34	(6)	PT	(2)	21

（審・大和・鈴木）

愛媛（愛媛選抜）24〔12―10、12―11〕21 宮城（東北学院大OB会）

〔戦評〕前半15分までは一進一退の攻防を展開していた。ミスの目立ちはじめに宮城は、愛媛の速攻によりリードを許し、前半12―10の2点リードで折り返す。
　後半に入り、宮城は反撃に出るが、愛媛GKの好守にあってなかなかリズムをつかめなかった。愛媛は宮城のミスをうまく速攻につなげ、3点のリードで逃げ切った。

得	〔愛媛〕		〔宮城〕	得
0	竹内	GK	松浦	0
0	川村		秋葉	0
0	石川	FP	日下	7
7	定岡		佐藤	5
6	金子		菅井	2
1	東福		小西	3
0	関谷光		弓場	0
7	上野		千葉	0
2	川田		加藤	1
1	山本		小野寺	0
0	関谷達		佐々木	3
0	田中		今野	0
24	(2)	PT	(1)	21

（審・小友・谷藤）

栃木（栃の葉ク）34〔19―5、15―17〕22 岩手

〔戦評〕試合開始直後から両チームの特徴である速い攻撃の連続で見応えのある試合展開でスタートしたが、岩手の速攻は栃木GK石田の好守でなかなか得点にならない。それに対して栃木の攻撃は、コートいっぱいに使った幅広い巧みな攻撃でディフェンスを惑わし、着実に得点を重ねる。
　後半に入って岩手も全く互角の戦いぶりを見せてよく頑張ったが、前半の点差が大きく及ばなかった。

得	〔栃木〕		〔岩手〕	得
0	染谷	GK	鎌田	0
0	石田		多田	0
5	中田	FP	谷川	7
1	四元		中島	2
6	山下		及川	3
0	新開		大沢	0
5	武井		山口	0
0	川田		吉田	0
2	岸		谷藤	2
6	滝口		小田中	6
1	小西		柏舘	1
1	中山		岩角	1
34	(2)	PT	(1)	22

（審・林・田中）

京都（京都ク）33〔13―11、20―4〕15 山口

〔戦評〕山口の先行でスタートするが、すぐに京都も得点してシーソーゲームとなった。両チームとも攻守に優れ、互いに譲らぬ展開となったが、ミスと反則の差が得点に出て、13―11と京都が前半を2点リードする。
　後半に入り、堅いディフェンスからの速攻で5分過ぎには京都が6点差とした。その後の山口の反撃を期待したが、前半とは対照的に京都の一方的なゲーム展開となってしまった。

得	〔京都〕		〔山口〕	得
0	山下	GK	吉村	0
0	咲本		古谷	0
6	国府	FP	飯島	1
1	佐久間		橋本	3
14	橋本		吉兼	4
0	酒井		角	3
1	池辺		岡村	0
0	西田		原井	3
4	西村		中村	0
1	中村		日川	0
2	加藤		倉谷	1
4	清水		片山	0
33	(2)	PT	(2)	15

（審・後藤・島田）

三重（本田技研鈴鹿）39〔19―7、20―10〕17 熊本

〔戦評〕本田技研鈴鹿、熊本の兄弟対決になったが、ディフェンスの力が一枚上手の三重がGKの好プレイもあり、立ち上がりから連続して速攻を決め、15分には12―1と大差がついてしまった。
　熊本はセット・オフェンスからのシュートミス、パスミスなどが目立ち、攻撃にやや雑な面が見られた。それに対し三重は、ミドル、ポスト、サイドと多彩な攻撃で、セットでもやはり一枚上の感は否めなかった。

得	〔川重〕		〔熊本〕	得
0	高木	GK	中尾	0
0	橋本		宮本	0
6	真砂	FP	矢野	0
0	梅基		荒田	0
8	平松		三代	1
4	立木		松村	4
3	尾上		田中	0
3	内藤		山口	2
8	栗屋		川崎	2
4	山村		村田	1
2	田口		田中	7
1	山本		堀内	0
39	(1)	PT	(3)	17

（審・小笠原・江成）

愛知（大同特殊鋼）34〔18―6、16―10〕16 東京

〔戦評〕東京は愛知の高いディフェンスを破れず、攻撃が単調になった。愛知は田中の速攻、サイド高村のミドルシュートなどで着々

と加点、前半で大量リードを奪い勝負を決めた。

〔東京〕	得		〔愛知〕	得
宇田川	0	GK	上村	0
吉田	0	GK	秋吉	0
濱川	2	FP	田中	11
飯島	5		河井	0
田口	0		高村	4
大坪	3		朝生	8
近藤	1		畑	0
山口	5		明石	3
浜田	0		名取	1
関	0		植木	4
吉原	0		横浜	0
河村	0		佐藤	3
(2)	16	PT	(7)	34

（審・大和、鈴木）

北海道（はまなすク）27 〔13−13 / 14−8〕 21 香川（讃岐ク）

〔戦評〕香川が好スタートを切り一方的な展開になるかに見えたが、北海道はGKを交代させ、リズムを変えた。香川はポストパスにこだわり、インターセプトされ、連続速攻で北海道が逆転。その後一進一退をくり返し、13−13の同点で前半を折り返した。

後半に入っても10分まで18−18の同点であったが、北海道がパスカットから連続7ゴールをあげて試合を決めた。

〔香川〕	得		〔北海道〕	得
大谷	0	GK	山本	0
平田	0	GK	木下	0
亀井	9	FP	三浦	5
谷口	1		米内山	0
泉谷	1		高桑	0
高畠	2		佐藤	3
渡里	3		佐藤	8
浜田	1		渡辺	0
渡辺	0		高橋	0
西山	0		小野寺	1
宮地	0		清水	7
松原	4		柏崎	3
(1)	21	PT	(0)	27

（審・小友、谷藤）

広島（湧永製薬）40 〔22−4 / 18−10〕 14 秋田

〔戦評〕技術、体力に勝る広島が試合開始30妙から12連続得点、秋田も14分に佐藤のロングで初得点。ポスト、サイドと果敢に攻撃するが、ディフェンスを崩すには至らず、前半を22−4で終了。

後半も試合の流れは変らず、広島の一方的なゲームとなったが、最後まで力を抜かずにプレーした秋田の健闘を賛えたい。

〔秋田〕	得		〔広島〕	得
大沼	0	GK	多田	0
石山	3	FP	井藤	0
高橋	0		酒巻	2
古関	5		河原	6
高山	0		玉村	7
浜野	1		堀田	5
高橋	2		新井	1
渡部	3		中川	5
菅	0		長沢	6
佐藤	0		荷川取	2
			楢原	2
			奥田	4
(0)	14	PT	(4)	40

（審・小笠原、江成）

3回戦

埼玉 43 〔21−7 / 22−5〕 12 愛媛

〔戦評〕立ち上がり5分、愛媛はブラインドシュートで3−4と健闘した。しかし、地力に勝る埼玉は、固い守りとフットワークを使った多彩な攻めで、速攻、ロングで連続得点し、試合を決定した。

〔愛媛〕	得		〔埼玉〕	得
竹内	0	GK	矢内	0
川村	0	GK	渡辺	0
石川	0	FP	松岡	4
定岡	1		大和田	5
金子	1		武田	7
東福	4		首藤	4
関谷	0		中田	3
上野	3		山本	0
川田	2		甲斐	9
山本	1		菅田	4
関谷	0		相馬	3
田中	0		宮下	4
(0)	12	PT	(2)	43

（審・佐藤、鈴木）

京都 22 〔10−10 / 12−7〕 17 栃木

〔戦評〕開始早々京都の速攻が決まり、京都が好スタートを切った。その後もロング、カットインで加点、20分には9−5とリードを奪う。一方の栃木も15分過ぎから相手ミスなどから反撃、サイド、ミドルと連取、10−10の同点で前半を終了。

後半に入り一進一退の展開。20分に栃木の攻撃の雑さを京都が速攻に結びつけ、3点リードを奪うとGKの好守もあってそのまま逃げ切った。

〔栃木〕	得		〔京都〕	得
染谷	0	GK	山下	0
石田	0	GK	咲本	0
中田	1	FP	国府	7
四元	0		佐久間	0
山下	5		楠本	5
新開	0		酒井	0
武井	0		池辺	0
川田	0		西田	0
岸	0		西村	4
滝口	9		中村	2
小西	2		加藤	3
中山	0		清水	1
(2)	17	PT	(2)	22

（審・大河原、守屋）

三重 28 〔14−7 / 14−10〕 17 愛知

〔戦評〕日本リーグ勢同士の対決は、開始27妙に愛知・佐藤がGK顔面へのシュートで退場となる不穏な立ち上がり。8分に1−1の同点だったが、その後9分間愛知は無得点で、この間に8−1と大きく開いた。前半で退場4人と荒れた試合ながら、この後は一進一退、14−7と三重の7点リードで前半を終了。

後半、愛知のミスや三重GK橋本の好守で10分には20−8と大差がつく。その後は両チームとも互角の点の取り合いを見せたが、三重が大量点差に余裕をもって押し切った。

〔愛知〕	得		〔三重〕	得
上村	0	GK	高木	0
秋吉	0	GK	橋本	0
田中	1	FP	真砂	1
河井	0		梅基	0
高村	1		平松	3
朝生	2		立木	5
畑	0		尾上	2
明石	8		内藤	2
名取	0		粟屋	7
植木	3		山村	8
横浜	1		田口	0
佐藤	1		山本	0
(2)	17	PT	(3)	28

（審・馬場、浜田）

広島 35 〔18−5 / 17−8〕 13 北海道

〔戦評〕前半、広島は中川の速攻、奥田のサイドシュート、玉村のミドル、ロングで北海道を圧倒。一方北海道も佐藤の速攻で反撃するが、18−5で折り返す。

後半に入って広島はメンバーを

入れ替えるが、最後まで手を抜かず好ディフェンスから着実に加点、北海道も地方の声援を受け、最後まで意地を見せたが、終始広島が力の差を見せつけ35—13で完勝した。

	〔北海道〕	得	〔広島〕	得
GK	山本	0	多田	0
GK	木下	0	藤井	0
FP	三浦	4	酒巻	4
FP	米内山	2	河原	2
FP	高桑	0	玉村	11
FP	佐藤	5	堀田	2
FP	佐藤	1	新井	0
FP	渡辺	0	中川	4
FP	高橋	1	長沢	6
FP	小野寺	0	荷川取	1
FP	清水	0	楢原	1
FP	柏崎	0	奥田	4
PT		(2)		(2)
		13		35

（審・小友 谷藤）

準決勝

埼玉 31〔14—11 / 17—8〕19 京都

〔戦評〕前半、埼玉の動きが悪く、京都ミドル、速攻で得点をあげリードを奪う。しかし、埼玉もナショナルプレーヤーを中心に守りからリズムをつかみ、前半を14—11とした。

後半は地力に勝るが、埼玉が攻守に京都を上回り勝利を飾る。

	〔京都〕	得	〔埼玉〕	得
GK	山下	0	矢内	0
GK	咲本	0	渡辺	0
FP	国府	7	松岡	5
FP	佐久間	3	大和田	5
FP	楠本	4	武田	4
FP	酒井	0	首藤	2
FP	池辺	0	中田	0
FP	西田	0	山本	0
FP	西村	1	甲斐	5
FP	中村	2	菅田	2
FP	加藤	1	相馬	0
FP	清水	1	宮下	8
PT		(1)		(1)
		19		31

（審・馬場 浜田）

三重 20〔7—9 / 13—5〕14 広島

〔戦評〕日本リーグのトップチームの戦いとあってスタートから熱戦が広げられた。しかし広島は、再三のチャンスを三重のGKに阻まれ、逆に速攻、ポストプレーなどで三重に得点を許し、前半は三重の一方的なゲームになってしまった。

後半に入っても前半のペースのまま進み、三重の勝利で終った。広島は、最後のノーマークミスが最後まで取り戻せなかった。

	〔広島〕	得	〔三重〕	得
GK	多田	0	高木	0
GK	藤井	0	橋本	1
FP	酒巻	1	真砂	2
FP	河原	2	梅基	0
FP	玉村	6	平松	0
FP	堀田	0	立木	5
FP	新井	0	尾上	0
FP	中川	0	内藤	1
FP	長沢	2	粟屋	5
FP	荷川取	0	山村	5
FP	楢原	0	田口	1
FP	奥田	3	山本	0
PT		(0)		(2)
		14		20

（審・小友 谷藤）

3位決定戦

広島 19〔10—12 / 9—6〕18 京都

〔戦評〕広島の先行でスタートし13分まで4—1とリードする。京都も国府のロング、速攻で追いかけるが、広島GKに井藤の好守に阻まれなかなか加点できない。残り6分、たて続けに2人の退場者を出す広島に対し、京都も必死に追い上げるが9—6で前半を終了。

後半に入り、じりじりと追い上げる京都は残り11分についに同点に追いつく。その後白熱したシーソーゲームが続き、広島の1点リードで迎えた残り51秒、広島にミスが出て京都が速攻、反則・PTとなるが、GK井藤がキープ、広島が辛くも逃げ切った。

	〔京都〕	得	〔広島〕	得
GK	山下	0	多田	0
GK	咲本	0	藤井	0
FP	国府	4	酒巻	3
FP	佐久間	1	河村	1
FP	楠本	7	玉村	7
FP	酒井	0	堀田	2
FP	池辺	0	新井	0
FP	西田	0	中川	0
FP	西村	0	長沢	3
FP	中村	2	荷川取	2
FP	加藤	3	楢原	0
FP	清水	1	奥田	1
PT		(5)		(4)
		18		19

（審・小笠原 江成）

決勝

埼玉 22〔12—10 / 10—11〕21 三重

〔戦評〕立木を軸にしてポストプレー、速攻で攻める三重に対し、埼玉は首藤、武田のロングシュート、速攻で得点を重ね、前半は12—10と埼玉が2点リードして終了。

後半に入り、10分に14—14と同点に追いついた。三重に対し、埼

	〔三重〕	得	〔埼玉〕	得
GK	高木	0	矢内	0
GK	橋本	0	渡辺	0
FP	真砂	2	松岡	0
FP	梅基	0	大和田	1
FP	平松	0	武田	5
FP	立木	8	首藤	6
FP	尾上	0	中田	1
FP	内藤	0	山本	3
FP	粟屋	5	甲斐	3
FP	山村	5	菅田	1
FP	田口	1	相馬	0
FP	山本	0	宮下	2
PT		(5)		(3)
		21		22

（審・後藤 島田）


埼玉のゴールを守った矢内

玉も速攻、ロングで突き放しにかかる。その後一進一退の展開を続けたが、残り3分を切ってから甲斐があげた1点を守り切って埼玉が接戦を制した。

成年男子2部／東京が優勝

1回戦

福岡 25（全福岡）〔12－9／13－15〕24 **愛知**（トヨタ自動車）

〔戦評〕愛知は立ち上がり右サイド、中央からのアンダーシュートで2点リードしたが、福岡もPT、左サイドと得点をあげ追いついた。その後両チームともに点の取り合いとなり、見応えのある試合となった。前半残り4分から福岡の2本の速攻が決まり、3点をリードして折り返した。

後半に入り、福岡はサイド、ロング、カットインと得点をあげる。愛知もサイド、中央からのロングなどで得点するが、なかなか点差を縮めることができず、終了直前には1点差まで詰め寄ったが及ばなかった。

得	〔愛知〕		〔福岡〕	得
0	西井	GK	山田	0
0	富森	GK	七條	0
3	香井	FP	浜口	2
6	川田	FP	野田	6
1	酒井	FP	山崎	1
7	堀江	FP	古賀	2
3	中西	FP	遠藤	1
3	杉元	FP	藤田	4
1	田村	FP	野口	0
0	石本	FP	平野	5
0	松尾	FP	堤	0
0	森	FP	早川	4
24	(1)	PT	(3)	25

（審・佐藤・鈴木）

長野 32（全長野）〔15－10／17－15〕25 **山口**（下関ク）

〔戦評〕前半、長野は矢嶋のロングシュート、岩下の老かいなアシストプレー、鳥谷越の速攻などで着実に加点し、5点差で終了。

一方山口もGKの好守、浜本の速攻、カットイン、原田のロングで反撃するが、後半に入り両チームともディフェンスが甘くなったこともあり点の取り合いとなる。結局、両チーム激しい点の取り合いで、長野が前半のリードを保って逃げ切った。

得	〔山口〕		〔長野〕	得
0	春国	GK	片桐	0
0	橋本	GK	北島	0
0	溝部	FP	青木	0
7	島中	FP	塩川	2
8	浜本	FP	矢島	12
2	岡田	FP	行田	4
4	原田	FP	中条	0
0	杉村	FP	中村	1
1	梅林	FP	小山	2
3	吉村	FP	小笠原	0
0	中川修	FP	岩下	2
0	中川敏	FP	鳥谷部	9
25	(1)	PT	(1)	32

（審・大河原・守屋）

青森 20（青商ク）〔10－8／10－9〕17 **群馬**（あかぎク）

〔戦評〕前半立ち上がり、ミスからお互いに相手に速攻を許というような展開でなかなかペースをつかめなかったが、青森は7分頃からリズムが出はじめ、ポスト、サイド攻撃などでリードした。群馬も青森と同じようにポスト、サイド攻撃で追いすがり2点で折り返した。

後半、群馬はリズムに乗り、今井の速攻などで逆転したが、寺山の負傷退場から青森に速攻を許し、サイド山本のプレーで差を広げられてしまった。青森の地力が一歩勝ったが、ともに攻撃力に決定を欠いていた。

得	〔群馬〕		〔青森〕	得
0	野口	GK	天内	0
0	綿貫	GK	中村	0
2	譲原	FP	長洞	1
0	小金沢	FP	山本	3
2	寺山	FP	倉内	3
7	今井典	FP	木村	0
1	長谷川	FP	米塚	1
0	今井幸	FP	張山	5
0	栗田	FP	大村	2
5	新井	FP	山田	5
0	小島	FP	伊藤	0
0	渡根木	FP	藤田	0
17	(2)	PT	(1)	20

（審・佐藤・鈴木）

大阪 28（大阪ガス）〔13－9／15－16〕25 **愛媛**（愛媛選抜）

〔戦評〕立ち上がり大阪は動きが固く、8分までに愛媛が4－0とリードしたが、ここから大阪もスピードと体格を生かした攻撃で立て直し、GK福岡の好守もあって大阪が13－9として前半を終る。

後半に入って、大阪が7分までに18－11と離すが、愛媛も長嶺の豪快なロングを軸に11分には16－19まで詰めて混戦かと思われたが、終盤ノーマークをはずすなど愛媛にミスが出て、大阪が逃げ切った。

得	〔愛媛〕		〔大阪〕	得
0	鈴木寿	GK	福田	0
0	中村	GK	森	0
0	芝	FP	奥野	4
0	毛利	FP	加地	6
11	長嶺	FP	竹志	0
2	岡田	FP	合田	0
0	武方	FP	岩山	0
0	鈴木善	FP	中村	5
4	立花	FP	長田	6
0	丸川	FP	水谷	4
4	今井	FP	田坂	3
4	佐藤	FP		
25	(3)	PT	(0)	28

（審・大河原・守屋）

沖縄 27（沖縄教員）〔11－12／16－9〕21 **京都**（東山ク）

〔戦評〕沖縄がポストシュートで先行したが、両チームとも固さが見られ15分まで一進一退であった。しかし、15分過ぎから攻撃のリズムが出てきた京都がロング、サイドなど多彩な攻めで、相手ミスに乗じてじわじわ差を開き始め、25分には12－7と5点差まで開いた。それまで再三のチャンスを京都GKの美技に阻まれていた沖縄も残り5分から猛追、4点連取して1点差まで詰め寄った。

得	〔京都〕		〔沖縄〕	得
0	中尾	GK	新垣	0
0	辻井	GK	東恩納	0
2	松井	FP	佐平	5
0	林	FP	仲里	1
4	高尾	FP	仲本	4
6	橋本	FP	稲福	2
4	城	FP	大城	1
0	岩成	FP	高良	7
4	御牧	FP	金城	3
1	柴原	FP	仲間	1
0	鈴木	FP	知念	1
0	坂田	FP	仲田	2
21	(3)	PT	(3)	27

（審・矢澤・横瀬）

後半、勢いに乗る沖縄があっさり逆転、逆に5点差まで一気に広げる。脚力に勝る沖縄が終始リードをキープ、最後まで足が止まらなかった沖縄の走り勝ちであった。

山梨 30（日川ク）〔14—15 / 16—13〕28 岡山（全岡山）

〔戦評〕立ち上がりより、両チームとも力強く、激しい攻防を展開。山梨・菊島と岡山・上野のロングシュートの打ち合いが目につき、前半は15—14と岡山の1点リードで終了。

後半も同様の展開となったが、8分岡山・上野の退場があり、この間に山梨が2点リードして試合の主導権を握った。

得	〔山梨〕		〔岡山〕	得
0	辻	GK	須田	0
0	菊島功	GK	板野清	0
4	武藤	FP	山本圭	4
3	堀	FP	山本篤	0
7	古屋	FP	中山	5
0	佐藤建	FP	上野	13
0	佐藤茂	FP	板野守	5
7	菊島裕	FP	奥川	0
2	広瀬	FP	西田	0
1	窪川	FP	青野	0
6	中澤	FP	大塚	1
0	平山	FP	奥山	0
30	(4)	PT	(4)	28

（審・加藤、中村）

北海道 30（はまなすク）〔13—12 / 17—13〕25 宮城（宮城教員）

〔戦評〕北海道が先制、宮城が追いかける展開となる。北海道はGK好守から速攻ペースをつかみ、次第に点差を広げ、一時は5点差とするが、宮城も粘り強く追い上げ、1点差で前半を終了。

後半に入っても1点差を争う激しい攻防が続いたが、残り10分で宮城に退場者が出てペースを崩し、5点差をつけて北海道が逃げ切った。

得	〔北海道〕		〔宮城〕	得
0	小西	GK	春名	0
0	中屋	GK	花渕	0
6	岡	FP	佐々木	5
0	奥田	FP	木村	0
3	大橋	FP	三井	1
0	古屋	FP	福島	0
11	松沢	FP	村上	0
3	鈴木	FP	菅原	4
0	波多野	FP	白石	3
5	森	FP	千葉	0
2	猪子	FP	尾形	8
0	加藤	FP	石川	4
30	(0)	PT	(3)	25

（審・矢澤、横瀬）

東京 27（桜門ク）〔14—11 / 9—12 / 2—1 / 2—2〕26 三重（本田ク）

〔戦評〕三重は滑り出し快調に点数を重ねたが、20分過ぎ一息入れたところを東京にスキをつかれ、同点に追いつかれた。その後も一進一退をくり返したが、ラスト3分で速攻を連続して決めた東京が14—11とリードして前半を終了。

後半は両チームとも譲らず一進一退をくり返し、結局同点のまま延長に入る。

延長前半、東京は速攻とワンフエイントで2点を先取するが三重も1点をとる。延長の後半、三重は1点をとりまたも同点に。その後互いに1点を加点したが、ラスト18妙で東京が45度からのシュートでリードを奪って熱戦を制した。

得	〔東京〕		〔三重〕	得
0	山崎	GK	細野	0
0	尾沢	GK	新實	0
1	玉嶋	FP	西田	0
0	采野	FP	佐藤	5
0	宮沢	FP	喜井	2
0	荒井	FP	吉山	1
6	春木	FP	玉井	3
2	高野	FP	矢野	2
7	津兼	FP	三本松	3
4	納	FP	米村	1
3	藤村	FP	坂本	1
4	江沢	FP	田野	8
27	(1)	PT	(1)	26

（審・加藤、中村）

2回戦

福岡 27〔10—11 / 17—13〕24 長野

〔戦評〕長野・矢島と福岡・野田のロングヒッターを持ったチーム同士の対戦。福岡が野田のロングで先行、長野もすぐにサイドスカイを決め、15分過ぎから矢島のロングが決まりだし、全く互角の展開で11—10と長野が1点をリードして前半を終了。

後半も一進一退の好ゲームを展開、残り10分に18—18の同点。ここから福岡は早川の速攻、サイド、野田のロングで3点差。長野も必死に反撃するが、この3連続失点が重く、27—24で福岡が逃げ切った。

得	〔福岡〕		〔長野〕	得
0	山田	GK	片桐	0
0		GK	北島	0
1	浜口	FP	青木	1
7	野田	FP	塩川	7
2	山崎	FP	矢島	2
5	古賀	FP	行田	5
0	遠藤	FP	中条	0
4	藤田	FP	中村	4
0	野口	FP	小山	0
2	平野	FP	小笠原	2
0	堤	FP	岩下	0
6	早川	FP	鳥谷部	6
27	(2)	PT	(2)	27

（審・中島、高野）

大阪 27〔12—12 / 7—7 / 4—0 / 4—2〕21 青森

〔戦評〕10分頃までは大阪・水谷のロングシュート、青森・米塚、大村のロングシュート、カットインが決まり激しい点の取り合いを見せるかと思われたが、10分以降お互いにミスが多く得点につながらなかった。前半残り5分からは再び動きが速くなり、シーソーゲームを見せたが、12—12の同点のまま前半を終了。

後半開始早々、大阪は相手ミスに乗じる連続得点する。この差が最後まで続き青森は苦戦したが、残り3分で同点に追いつき、延長戦に入る。

延長戦は大阪がよく走り、着々と加点して勝利をものにした。

得	〔大阪〕		〔青森〕	得
0	福田	GK	天内	0
0	森	GK	中村	0
1	奥野	FP	長洞	4
7	加地	FP	山本	2
0	竹志	FP	倉内	2
0	合田	FP	木村	0
0	岩本	FP	米塚	4
2	中村	FP	張山	3
2	長田	FP	大村	5
6	水谷	FP	山田	1
9	田坂	FP	伊藤	0
		FP	藤田	0
27	(3)	PT	(1)	21

（審・加藤、中村）

山梨 36〔16—8 / 20—14〕22 沖縄

〔戦評〕山梨がポストプレーで先取点をあげ好スタートを切る。これに対し沖縄は速いボール回しから攻撃をしかけるが、山梨の固いディフェンスとGKの好守に阻まれ、なかなか得点に結びつかないが、山梨は速攻、ロングシュート、カットインプレーで得点をあげ、前半を16—8で終る。

後半、沖縄はサイドシュートから得点をあげ盛り返しを期待したが、GKの好守や固いディフェンスを崩すことができず得点のチャンスをつぶしてしまった。一方山梨は中沢のロングシュート、速攻、カットインと得点を重ね、36—22で勝利を飾った。

得	〔山梨〕		〔沖縄〕	得
0	辻	GK	新垣	0
0	菊島功	GK	東恩納	0
5	武藤	FP	佐平	2
2	堀	FP	仲里	0
4	古屋	FP	仲本	2
1	佐藤建	FP	稲福	4
0	佐藤茂	FP	大城	3
7	菊島裕	FP	高良	3
3	広瀬	FP	金城	2
1	窪川	FP	仲間	2
13	中澤	FP	知念	1
0	平山	FP	仲田	3
36	(0)	PT	(4)	22

（審・大和、鈴木）

東京 29〔12—10 / 17—11〕21 北海道

〔戦評〕立ち上がり両チームとも慎重になり過ぎ、北海道が先行するのを東京が追いかける展開が続いたが、ゲームが動きだしたのは15分過ぎ、東京が2点を連取して

初のリードを奪うと北海道もロング、ポストを織りまぜ、がぜん迫熱した点の取り合いとなった。結局、多彩な攻撃を見せる東京が一歩抜け出して前半を終了。
後半も東京が藤村の好配球からサイド、ポストと幅のある攻撃を見せ、一度も主導権を渡さず逃げ切った。

得	〔東京〕		〔北海道〕	得
0	山崎	GK	小西	0
0	尾沢		中屋	0
0	五嶋	FP	岡	0
1	采野		奥田	0
3	宮沢		大橋	4
2	荒井	（審・矢澤	古屋	0
4	春木	横瀬）	松沢	5
2	高野		鈴木	1
5	津兼		波多野	2
2	納		森	7
7	藤村		猪子	2
3	江沢		加藤	0
29	(2)	PT	(3)	21

準決勝

福岡 29〔16−12、13−6〕18 大阪

〔戦評〕お互いに速攻は出るがミスが多く、セット力のある福岡が点差をじりじりと広げていった。一方大阪もロング、ステップで追いかけるが、点差は縮まらず、13−6と大きく差がついて前半終了。
後半に入り、福岡に速攻が出はじめ、GKの好守ともあいまって大阪を押し切った。

得	〔福岡〕		〔大阪〕	得
0	山田	GK	福田	0
0	七条		森	0
3	浜口	FP	奥野	1
6	野田		加地	6
0	山崎		竹志	0
5	古賀	（審・大河原	合田	0
0	遠藤	守屋）	岩本	4
3	藤田		中村	1
2	平野		長田	3
3	堤		水谷	3
7	早川		田坂	0
29	(2)	PT	(1)	18

東京 25〔14−14、11−9〕23 山梨

〔戦評〕東京のテクニックと高さとパワーの山梨の激突となり、東京は藤村、山梨は菊島を中心に白熱したゲームが展開された。山梨はロングシュート、東京はフェイントやポストで得点し、前半を11−9と東京が2点リードした。
後半に入ると、東京・藤村、山梨の菊島の打ち合いとなり2点差がなかなか縮まらない。山梨は18分過ぎについに速攻で同点とした。しかし、東京もしぶとく引き離し辛くも逃げ切った。

得	〔東京〕		〔山梨〕	得
0	山崎	GK	辻	0
0	尾沢		菊島功	0
1	玉嶋	FP	武藤	5
0	采野		堀	1
2	宮沢		古屋	2
0	荒井	（審・加藤	佐藤建	0
4	春木	中村）	佐藤茂	0
2	高野		菊島裕	9
5	津兼		広瀬	1
1	納		窪川	0
10	藤村		中澤	5
0	江沢		平山	0
25	(3)	PT	(1)	23

3位決定戦

山梨 28〔13−15、15−5〕20 大阪

〔戦評〕立ち上がりから山梨が3点を連取、大阪もサイド、ポストで対抗、10分に4−2とするが、その後大阪はなかなか得点をあげられず、一方山梨は菊島のジャンプシュート、平山の速攻などで加点し、15−5と大きくリードして前半を終る。
後半、大阪はディフェンスからリズムをつかみ、走りだして速攻やペナルティなどで6点差まで追い上げたが、前半の大差は詰められず28−20で終了した。

得	〔山梨〕		〔大阪〕	得
0	辻	GK	福田	0
2	武藤		森	0
2	堀	FP	奥野	1
4	古屋		加地	4
1	佐藤建		竹志	0
0	佐藤茂	（審・田村	合田	0
6	菊島	斉藤）	岩本	1
3	広瀬		中村	1
0	窪川		長田	2
7	中澤		水谷	5
3	平山		田坂	6
28	(0)	PT	(2)	20

決勝

東京 26〔15−13、11−10〕23 福岡

〔戦評〕東京は試合開始より常に先行し、速攻がよく決まった。一方福岡は浜口、野田のロングシュートで対抗するが、11−10と東京の1点リードで折り返した。
後半開始早々、ようやくエンジンのかかった福岡は連続速攻が決まり一度は逆転した。しかし東京は、藤村のミドルシュートと巧みなパスワークで再度逆転した。ラスト4分、福岡はまた速攻で粘りを見せ1点差まで追い上げたが、東京GK山崎の再三にわたる好守で逃げ切った。

得	〔東京〕		〔福岡〕	得
0	山崎	GK	山田	0
0	尾沢		七條	0
2	玉嶋	FP	浜口	6
0	采野		野田	4
1	宮沢		山崎	0
0	荒井	（審・林	古賀	1
5	春木	田中）	遠藤	1
2	高野		藤田	1
7	津川		平野	0
3	納		堤	2
6	藤村		早川	8
0	江沢			
26	(0)	PT	(1)	23

成年男子2部は東京が制す

成年女子／山梨が優勝

1回戦

石川（北国銀行）27〔14―10、13―10〕20 **山口**（徳山ク）

〔戦評〕開始早々30秒、石川がポストシュートで先制、山口のディフェンスが調子の波に乗らないうちに5点を連取する。ようやくリラックスしてきた山口ディフェンスの足が軽くなり、ボールカットなどで2点差まで詰め寄る。結局前半は14―10と石川のリードで折り返す。

後半に入って、石川はよく走りその差を次第に広げていく展開となった。試合全般を見て、シュートミス、パスミスがともに多く、もう一つ盛り上がりに欠けた。

	〔山口〕	得
GK	野村	0
GK	中嶋直	0
FP	貞本	3
FP	石田	4
FP	中嶋華	2
FP	中村	0
FP	国沢	0
FP	三崎	0
FP	堀田	0
FP	福田	4
FP	飯田	5
FP	森本	2
PT		(1)
		20

（審・倉本、山辺）

	〔石川〕	得
GK	木戸	0
GK	岩井	0
FP	上田	1
FP	林	3
FP	丹後	6
FP	北川真	3
FP	矢野	4
FP	塙	2
FP	北川静	5
FP	宮本	1
FP	島木	2
PT		(1)
		27

岩手（自梅三英扶会）24〔8―13、16―9〕22 **香川**（オール香川）

〔戦評〕共にセットで遅攻のまま時折の速攻もミスが多く、15分まで5―5のロースコア。20分過ぎから岩手のパスミス、シュートミスに乗じて、香川の速攻、セットでの大きい振りからのサイド、カットインと多彩な攻めが決まりだし、岩手もカットインなどで追うが及ばず、13―8で前半を終る。

後半立ち上がりから岩手が速攻、サイドなどで連続して得点、15分に2点差、20分には同点、そして23分にはPTで逆転に成功した。その後の混戦から抜け出した岩手は残り1分にPTで2点差としてそのまま逃げ切る。

	〔香川〕	得
GK	香西	0
GK	大西	0
FP	谷本	0
FP	笠井	5
FP	末佐	2
FP	河野	6
FP	橘	4
FP	多田	4
FP	宇野	0
FP	川内	1
FP	川田	0
FP	松岡	0
PT		(1)
		22

（審・加藤、中村）

	〔岩手〕	得
GK	工藤絹	0
GK	橋本	0
FP	堀米	4
FP	川村	0
FP	外舘	10
FP	工藤理	0
FP	沢田	0
FP	菅原	0
FP	藤島	1
FP	鈴木	2
FP	畠山	0
FP	鎌田	7
PT		(3)
		24

2回戦

山梨（シャトレーゼ）21〔14―10、7―10〕20 **石川**

〔戦評〕石川は開始早々ミスからの速攻で先制するが、山梨も松沢がサイドシュートを決め主導権を握り、ずらし、ポスト攻撃で加点、一方の石川も北川のミドル、林の活躍で応戦、残り5分近くで速攻が決まりだしたが、前半14―10で終る。

後半に入ってから一進一退、石川GK木戸の好守もあり、速攻でじりじり詰め寄り、残り5分で同点、2分30秒で逆転、そのまま逃げ切るかに見えたが、山梨が再び同点として残り5秒、山梨・松沢が決勝ゴールを奪い、大勢戦に終止符をうった。

	〔石川〕	得
GK	木戸	0
GK	岩井	0
FP	上田	2
FP	林	4
FP	丹後	4
FP	松田	3
FP	北川真	5
FP	矢野	1
FP	塙	0
FP	北川静	1
FP	宮本	0
FP	島木	0
PT		(1)
		20

（審・錦織、武田）

	〔山梨〕	得
GK	丸山	0
GK	工藤	0
FP	小松	3
FP	島崎	3
FP	海道	4
FP	松沢	7
FP	黒沼	0
FP	小林	1
FP	小野寺	3
FP	江原	0
FP	鶴田	0
FP	山岸	0
PT		(0)
		21

愛知（ブラザー工業）20〔10―9、10―7〕16 **栃木**（日立栃木）

〔戦評〕開始早々3点リードした栃木に対し、愛知は荒木を中心によく追いすがり、20分過ぎに7―7の同点に追いつく。その後、逆に愛知が3点を連取、日立が追い上げて、10―9と愛知の1点リードで前半を終了。

後半に入り、愛知はPT、荒木の3連続ロングシュートなどで得点を重ね、攻撃のリズムを失った栃木に対し勢いに乗った愛知がリードを保って逃げ切った。

	〔栃木〕	得
GK	岡本	0
GK	梅津	0
FP	尾苗	4
FP	神永	2
FP	新井	1
FP	柳田	3
FP	山岸	3
FP	吉鶴	2
FP	堤	0
FP	繁在家	0
FP	岡田	0
FP	石毛	1
PT		(2)
		16

（審・林、田中）

	〔愛知〕	得
GK	岡本	0
GK	西住	0
FP	荒木	7
FP	末永	2
FP	小栗	0
FP	坂倉	0
FP	道上	3
FP	松尾	2
FP	進藤	2
FP	野田	4
FP	甲斐	0
FP	高木	0
PT		(1)
		20

京都（京都ク）34〔18―6、16―13〕19 **北海道**（はまなすク）

〔戦評〕開始直後京都が2本のPTを決めて先行、その後速攻で得点を重ねて京都ペース。一方北海道は徐々に固さがとれて追い上げるが、前半を18―6と京都のリードで終る。

後半に入っても、京都の攻撃は速く、速攻を主体に得点、終始地力に勝る京都が一方的な試合で勝利をつかんだ。

	〔北海道〕	得
GK	小松	0
GK	久保田	0
FP	村本	0
FP	大原	2
FP	山本	4
FP	鎌田	0
FP	信田	1
FP	平田	0
FP	長谷川	1
FP	佐藤	5
FP	伝法谷	6
FP	藤本	0
PT		(4)
		19

（審・後藤、島田）

	〔京都〕	得
GK	畑添	0
GK	山本	0
FP	矢野	0
FP	池上	1
FP	中尾	3
FP	藤田	9
FP	渡辺	1
FP	酒井	3
FP	小橋	5
FP	審	3
FP	井上	3
FP	山本	6
PT		(7)
		34

熊本（立石電機山鹿）42〔22―3、20―6〕9 **岩手**

〔戦評〕ゲーム開始と同時に熊本の得点が連続し、10分が過ぎてから岩手の得点が記録されるが、その後も堅い熊本のディフェンスを崩すことができないまま熊本の速攻、セット攻撃で失点する。

後半開始岩手が得点するが、すかさず熊本も反撃し、熊本が強さを見つけた試合のままゲームが終る。

	〔岩手〕	得
GK	工藤絹	0
GK	橋本	0
FP	堀米	6
FP	川村	1
FP	外舘	0
FP	工藤理	2
FP	沢田	0
FP	菅原	0
FP	藤島	0
FP	鈴木	0
FP	畠山	0
FP	鎌田	0
PT		(3)
		9

（審・錦織、武田）

	〔熊本〕	得
GK	川島	0
GK	前川	0
FP	横田	1
FP	山内	0
FP	中山	5
FP	武津	7
FP	古田	5
FP	野嶋	3
FP	橋本	2
FP	斉藤	9
FP	石村	10
FP	比嘉	0
PT		(5)
		42

準決勝

山梨 19〔10―6、9―7〕13 **愛知**

〔戦評〕山梨のテクニックと愛知のパワーのぶつかり合いになるかに思われた前半、山梨・小松のロングシュートできっかけをつかんだ山梨が引き離しにかかるが、愛知も必死に追いかけるが10―6と山梨のリードで前半を終了。

後半に入り、愛知も荒木のシュ

ートで追いかけるが、なかなか4点差を縮めることができない。一方山梨は、次第に速攻が出はじめ、リードを広げて逃げ切った。

得	〔山梨〕		〔愛知〕	得
0	丸山	GK	岡本	0
0	工藤	GK	西住	0
2	小松	FP	荒木	7
2	嶋崎	FP	末永	1
2	海道	FP	小栗	1
2	松沢	FP	坂倉	0
5	黒沼	FP	道上	1
1	小林	FP	松尾	2
2	小野寺	FP	進藤	0
1	江原	FP	野田	1
0	鶴田	FP	甲斐	0
2	山岸	FP	高木	0
19	(4)	PT	(1)	13

（審・林　田中）

熊　本 29 (19—7, 10—9) 16 京　都

〔戦評〕前半、京都が速攻で先制2点をリードするが、熊本も速攻を中心にロング、ステップと攻撃し逆転、10—9と1点をリードして折り返す。

後半に入ると、速攻を中心にコートを走り回る熊本が連続して得点し、京都のディフェンスの足が止まると高い位置からのロングシュートを決める。京都はセット中心でポストプレーとカットインで攻撃するが、走力、パワーの差が出てしまった。

得	〔熊本〕		〔京都〕	得
0	川島	GK	畑添	0
0	前川	GK	山本圭	0
1	横田	FP	矢野	0
0	山内	FP	池上	2
7	中山	FP	中尾	5
4	武津	FP	藤田	0
2	古田	FP	渡辺	0
3	野嶋	FP	酒井	2
0	橋本	FP	小橋	1
1	斉藤	FP	審	1
3	石村	FP	井上	3
7	比嘉	FP	山本真	2
29	(2)	PT	(1)	16

（審・錦織　武田）

3位決定戦

愛　知 21 (11—7, 10—11) 18 京　都

〔戦評〕15分までは京都が速攻やポストシュートなどで得点しゲームを優位に進めていたが、愛知も末永のロングシュートやサイドシュートで反撃し、前半は11—10と1点差で終了する。

後半、愛知は3点を連取して逆転、そのまま勢いに乗るかと思われたが、京都もポストシュートで得点し一進一退が続く。10分過ぎに京都に退場が続き、その間に19—14と差がつく。その後京都もよく追い上げたが及ばなかった。

得	〔愛知〕		〔京都〕	得
0	岡本	GK	畑添	0
0	西佳	GK	山本圭	0
4	荒木	FP	矢野	1
4	末永	FP	池上	1
1	小栗	FP	中尾	4
0	坂倉	FP	藤田	0
1	道上	FP	渡辺	0
1	松尾	FP	酒井	1
6	進藤	FP	小橋	4
4	野田	FP	審	0
0	甲斐	FP	井上	4
0	高木	FP	山本真	3
21	(1)	PT	(0)	18

（審・横瀬　矢澤）

決勝

山　梨 21 (10—12, 11—7) 19 熊　本

〔戦評〕互角の立ち上がりだったが、15分過ぎから山梨はサイド、ロング、カットインと連続5得点をあげ、11—7と4点をリードして前半を終了。

後半に入り、開始早々熊本が連続速攻を決めて逆転、会場は一気に盛り上がった。その後全くの一進一退の展開であったが、残り3分で山梨・海道のロングシュートがほぼ試合を決定づけた。熊本も粘りを見せたが惜しくも及ばなかった。

得	〔山梨〕		〔熊本〕	得
0	丸山	GK	川嶋	0
0	工藤	GK	前川	0
2	小松	FP	横田	0
1	嶋崎	FP	山内	0
3	海道	FP	中山	6
3	松沢	FP	武津	1
3	黒沼	FP	古田	0
0	小林	FP	野嶋	3
3	小野寺	FP	橋本	0
0	江原	FP	斉藤	0
0	鶴田	FP	石村	0
9	山岸	FP	比嘉	9
21	(3)	PT	(1)	19

（審・斉藤　田村）

少年男子／東京が優勝

1回戦

東　京 25 (明星高) (8—9, 11—10, 2—2, 4—1) 22 山　口 (山口選抜)

〔戦評〕開始直後山口が先制点をあげ、ディフェンスの良い山口のペースで終始試合が進む。東京も徐々に力を発揮、9—8の1点差で前半を終了。

後半に入り、東京もペースをつかんだかと思われたが、シュートが思うように決まらず、19—19の同点で辛くも延長戦に入る。延長に入り、1点を争う戦いであったが、東京が2点差をつけて辛うじて逃げ切った。

得	〔東京〕		〔山口〕	得
0	梶山	GK	三牧	0
0	小林	GK	亀山	0
13	五島	FP	田村	5
0	金井	FP	藤谷	0
2	遠藤	FP	藤井	2
0	田代	FP	中村	4
0	野島	FP	藤井	4
0	宍戸	FP	五郎丸	4
4	島沢	FP	浅本	3
9	高橋	FP	広中	0
0	佐藤	FP	坂本	0
25	(2)	PT	(3)	22

（審・中島　高野）

石　川 20 (石川選抜) (10—8, 10—6) 14 大　阪 (大阪選抜)

〔戦評〕前半のミスが得点に響いて大阪は6点、石川は相手の弱点をつかみ、高畠のフェイントからのシュートを中心に上手にセットからの攻撃をまとめ、チームのリズムをつくって10点をあげた。

後半、大阪はディフェンスを堅め必死に食い下がって1点差まで追い上げたものの、石川の攻撃の流れを食い止めることができなかった。

得	〔大阪〕		〔石川〕	得
0	菊野	GK	藤島	0
0	稲田		小寺	0
1	小林	FP	大壁	2
1	大川		北橋	3
3	真田		中村	2
3	吉田		菊谷	1
1	東		石井	1
0	大山		藤多	4
3	宮地		高畠	4
2	中井		松本	3
0	森屋		奥村	0
0	安田		東	0
14	(3)	PT	(0)	20

〔審・江成・小笠原〕

愛媛（新居浜工） **20** 〔9－11／11－5〕 **15** **秋田**（秋田選抜）

〔戦評〕愛媛はスタートから速攻、ミドルシュートと好スタートを切ったが、10分過ぎからリズムを乱しなかなか点にならなくなった。その間秋田はサイド、ポストから得点、前半1点をリードして終る。

後半、秋田はいいリズムでスタートしたが、10分過ぎ愛媛に同点にされてから歯車が合わなくなりなかなか得点につながらなくなった。一方愛媛は、同点に追いついてから速攻、ミドル、ポストと着々と得点を重ね、秋田の追い上げをふり切った。

得	〔秋田〕		〔愛媛〕	得
0	下嶋	GK	近藤	0
0	照井		原	0
6	本田	FP	白石	1
2	松田		加藤	1
1	高橋		藤原	0
0	佐藤		森田	6
0	高橋		井原	0
2	高橋		大西	6
4	藤原		武田	1
0	小坂		村上	1
0	土田		松本	4
0	高橋		武方	0
15	(2)	PT	(0)	20

〔審・錦織・武田〕

愛知（愛知選抜） **21** 〔13－8／8－11〕 **19** **熊本**（熊本市商）

〔戦評〕愛知の先行で始まり、13分過ぎまで一進一退のゲームが続いた。熊本も速攻とポストで一時同点となったが、13－8と差をつけられ前半を終了。

後半13分過ぎに同点になるなど追い上げに必死。しかしながら、選抜のハンデをものともしない愛知の力の前に熊本は惜敗した。

得	〔熊本〕		〔愛知〕	得
0	東	GK	堀木	0
0	西浦		地内	0
0	蔵田	FP	丹羽	3
3	梅井		石田	2
0	久保田		鬼頭	1
10	平田		金子	4
0	宮崎		清水	4
2	長松		青山	0
3	松谷		橋本	2
0	濱津		山ノ内	1
1	加川		中井	3
0	益崎		近藤	1
19	(3)	PT	(2)	21

〔審・江成・小笠原〕

神奈川（神奈川選抜） **28** 〔12－8／16－5〕 **13** **青森**（青森選抜）

〔戦評〕立ち上がり、青森はスカイプレーから1点を先取。対する神奈川も手渡しパスからのポストシュートで返す。14分まで両チーム一進一退の攻防であったが、その後神奈川は青森のミスを速攻に結びつけて得点を重ねる。ペースをつかんだ神奈川は、サイドシュート、ポストシュート、速攻と多彩な攻撃で青森を突き放した。青森はロングシュートをGKの好守に阻まれ、最後まで持ち味を出せず1回戦で敗れ去った。

得	〔青森〕		〔神奈川〕	得
0	鈴木	GK	小野寺	0
0	前田		鎌田	0
1	大村	FP	山地	4
4	工藤		小沢	6
4	木浪		松沢	1
0	澤田		後藤	1
0	佐藤		西村	10
1	牧野		斉藤	0
2	名古屋		太刀川	1
1	岡村		中村	1
0	佐藤		熊倉	4
			小俣	0
13	(0)	PT	(2)	28

〔審・林・田中〕

岡山（岡山選抜） **26** 〔15－8／11－11〕 **19** **北海道**（はまなす選抜）

〔戦評〕立ち上がり両チームともミスが多かったが、固さが見られる北海道に対し、岡山はサイド山辺を中心に得点を重ね、守ってはカットから速攻をくり返し加点。足の止まっている北海道に対しポスト攻撃などで15－8で前半を終了。

後半、気持ちを切り替え、開催地の意地を見せる北海道、GK高橋の好守もあり、攻めては宮田、沢村が当たりだし、一時は3点差としたが、前半の点差が重荷となり、岡山が逃げ切った。

得	〔北海道〕		〔岡山〕	得
0	高橋	GK	丸本	0
0	鈴木		山上	0
6	白幡	FP	白神	0
0	西沢		安田	4
1	飯原		木口	10
1	尾形		山邊	0
4	澤村		藤本	0
0	和泉		瀬尾	0
1	渡部		水畑	0
1	中島		永谷	8
1	鳶澤		青井	4
4	宮田		能登	0
19	(2)	PT	(3)	26

〔審・後藤・島田〕

福岡（久工大付） **29** 〔14－4／15－7〕 **11** **京都**（京都選抜）

〔戦評〕立ち上がりのペースをとり合う大切な時に京都はPTを2本福岡GKに好守され、実力に勝る福岡の一方的なペースとなる。特に、ディフェンスの強い福岡に対し京都は無理な体勢からシュートをねらい、福岡ディフェンスにはね返され、福岡はそのボールを着実に速攻で得点につなげ、楽な試合展開で終了した。

得	〔京都〕		〔福岡〕	得
0	湯浅	GK	文	0
0	水野		中島	0
2	片山	FP	岡	2
0	森川		誉田	1
1	岩本		鶴田	9
2	森川		古賀	0
0	塩見		田中	0
1	清水		柳	1
0	保田		江口	0
2	坂元		飯田	1
1	朽岡		川崎	5
2	松村		馬場	10
11	(0)	PT	(1)	29

〔審・林・田中〕

埼玉（埼玉選抜） **23** 〔11－7／12－11〕 **18** **岐阜**（岐阜選抜）

〔戦評〕速攻を中心に展開がはじまり、岐阜の得点で1点差で前半15分まで経過するが、岐阜・日比野がマンツーマンで抑えられ得点が止まり、その間埼玉は永山、安藤、笹井の浦和実トリオが頑張り、前半は11－7と埼玉が4点リードして終了。

後半、岐阜が連続得点で2点差と詰めるが、埼玉は永山、本間の2人で10ゴールを決めて決定的とする。

得	〔岐阜〕		〔埼玉〕	得
0	此島	GK	菊地	0
0	渡辺		渡部	0
0	中村	FP	山田	0
1	日比野		新方	1
2	古賀		須藤	0
2	川畑		塚越	1
1	武内		永山	10
8	安田		安藤	3
4	堀部		笹井	2
0	大野		本間	4
0	杉山		飯野	2
			沖	0
18	(2)	PT	(2)	23

〔審・後藤・島田〕

2回戦

東京 **23** 〔12－7／11－12〕 **19** **石川**

〔戦評〕立ち上がり固さの見えた両チームであるが、5分過ぎからようやく得点が入り、両チーム5－5と一進一退のゲームとなった。15分過ぎ、東京は石川の単調な攻めに乗じて連続速攻をかけ、12－7とリードして前半を終了。

後半早々石川はディフェンスのスキをついて連続得点して2点差まで詰めた。しかし、東京は速攻などで確実に得点を重ね再びリー

得	〔石川〕		〔東京〕	得
0	藤島	GK	梶山	0
0	小寺		小林	0
1	大壁	FP	五島	7
7	北橋		金井	0
1	中村		遠藤	5
0	菊谷		田代	1
2	石井		野嶋	0
2	藤多		宍戸	0
3	高畠		島澤	5
2	松本		高橋	5
1	奥村		佐藤	0
0	東		斉藤	0
19	(0)	PT	(3)	23

〔審・田村・斉藤〕

ドを広げ、前半の点差を守った東京がふり切った。

愛知 23 〔12—9 / 11—9〕 18 愛媛

〔戦評〕愛媛の中間速攻、愛知のミドルシュートで始まった試合は一進一退の攻防を続けたが、前半残り5分のところで愛知・金子の連続得点などでややペースをつかみ、一時は愛知の3点差で終るかに見えたが、前半終了ノータイムフリースローで愛媛・大西のシュートが決まり2点差に食い下がった。

　しかし、後半地力に勝る愛知は速攻、カットイン、ロングシュートと愛媛のゴールを攻め、リードを広げた。愛媛は大西がロング、フリースローと頑張ったがおよばなかった。

〔愛媛〕	得		〔愛知〕	得
近藤	0	GK	木堀	0
原	0	GK	内地	0
石白	0	FP	羽丹	3
藤加	0	FP	田石	1
原藤	0	FP	頭鬼	1
田森	3	FP	子金	11
原井	0	FP	水清	2
西大	12	FP	山青	0
田武	0	FP	本橋	1
上村	0	FP	内ノ山	3
本松	3	FP	井中	0
方武	0	FP	藤近	1
18	(2)	PT	(0)	23

（審・馬場、浜田）

神奈川 37 〔17—10 / 20—9〕 19 岡山

〔戦評〕神奈川の足を使ったリズムある攻撃に岡山のディフェンスがかみ合わず、開始5分で6点を連取される。岡山も白神のサイドシュートから反撃のきっかけをつかみ、10分で9—5と迫ったが、それ以降単調な攻めとなり、20—9で前半を折り返す。

　後半、岡山は2点連取したが、攻撃のミスから走られて、前半同様な展開となり、神奈川のスピードある攻撃に圧倒されたゲームであった。

〔岡山〕	得		〔神奈川〕	得
丸本	0	GK	小野寺	0
山上	0	GK	鎌田	0
白神	4	FP	山地	6
安田	4	FP	小沢	8
木口	2	FP	松沢	1
山邊	2	FP	後藤	1
藤本	0	FP	西村	9
瀬尾	0	FP	斉藤	2
水畑	1	FP	太刀川	1
永谷	2	FP	中村	1
青井	3	FP	熊倉	5
能登	1	FP	小俣	3
19	(0)	PT	(1)	37

（審・田村、斉藤）

福岡 23 〔15—5 / 8—10〕 15 埼玉

〔戦評〕埼玉のディフェンスの良さから速攻で4—0とリード。しかし、福岡も1対1のフェイントをうまく生かし、中盤は両者ミスがありながらも互角の闘い。埼玉のノーマークミスを後半福岡が確実に点につなげ、10—8と前半を埼玉がリードして終了。

　後半立ち上がり、埼玉のノーマークミスから福岡の攻守のリズムが良くなり逆転。そのままフットワークを生かした攻撃で埼玉を押し切った。

〔埼玉〕	得		〔福岡〕	得
菊地	0	GK	文	0
渡部	0	GK	中島	0
小田	2	FP	岡	4
新方	3	FP	誉田	6
須藤	0	FP	鶴田	3
塚越	0	FP	古賀	0
永山	5	FP	田中	0
安藤	2	FP	柳	0
笹井	3	FP	江口	0
本間	0	FP	飯田	1
飯野	0	FP	川崎	3
沖	0	FP	馬場	6
15	(1)	PT	(1)	23

（審・馬場、浜田）

準決勝

東京 30 〔15—13 / 15—10〕 23 愛知

〔戦評〕東京・佐藤の右サイド、愛知・丹羽、石田の活躍で点を取り合い一進一退の好ゲーム。愛知が連続してノーマークシュートを外す間に東京が確実に決めて抜け出し、15—10で前半終了。

　後半も確実さを失なわぬ東京が着実に得点を重ね。愛知も速攻、PTなどで追うが、ディフェンスの甘さが目立ち始め、間を割られることが多くなり、得点の後を守り切れず、追いつくことができなかった。

〔愛知〕	得		〔東京〕	得
堀木	0	GK	梶山	0
池内	0	GK	小林	0
丹羽	2	FP	五島	9
石田	5	FP	金井	1
鬼頭	1	FP	遠藤	1
金子	6	FP	田代	4
清水	0	FP	野島	0
青山	0	FP	宍戸	0
橋本	5	FP	島澤	3
山ノ内	1	FP	高橋	8
中井	1	FP	佐藤	4
近藤	2	FP	斉藤	0
23	(1)	PT	(2)	30

（審・斉藤、田村）

神奈川 22 〔12—10 / 10—10〕 20 福岡

〔戦評〕時折見せる手渡しパスにロング、ポスト、サイドと変幻自在の神奈川に対し、ディフェンスの穴を巧みについて、カットイン、サイド、速攻の福岡、互いに持てる技を駆使しての応酬、一進一退のまま10—10で前半を終了。

　後半滑り出しは、福岡が先制、カットイン、速攻、スカイプレーと3点を連取するが、神奈川が10分に追いつき6点をリード。その後福岡は速攻、スカイプレーなどで追うが、スカイプレーのミスが目立ち始め、2点差までが精一杯であった。

〔福岡〕	得		〔神奈川〕	得
文	0	GK	小野寺	0
中島	0	GK	鎌田	0
岡	2	FP	山地	6
誉田	4	FP	小沢	6
鶴田	5	FP	松沢	0
古賀	0	FP	後藤	0
田中	0	FP	西村	7
柳	0	FP	斉藤	1
江口	0	FP	太刀川	1
飯田	0	FP	中村	0
川崎	5	FP	熊倉	1
馬場	4	FP	小俣	0
20	(2)	PT	(3)	22

（審・後藤、島田）

3位決定戦

福岡 24 〔13—14 / 11—9〕 23 愛知

〔戦評〕前半は両チームとも一進一退の攻防を展開した。走りを主体とした福岡に対し、セットで確実に得点をあげようとしている愛

知の戦いであった。
後半に入り、愛知はセットプレーにおいてノーマークシュートはあるが、福岡GKの好守にあい点差が開いた。終盤粘る愛知は、残り時間1分22秒にPTで1点差まで追いついたが力つき、福岡が辛くも逃げ切った。

〔愛知〕	得		得	〔福岡〕
堀木	0	GK	0	文
地内	0	GK	0	中島
丹羽	1	FP	3	岡
石田	5		2	誉田
鬼頭	1		4	鶴田
金子	6		0	古賀
清水	0		0	田中
青山	0		0	柳
橋本	1		0	江口
山ノ内	3		0	飯田
中井	2		8	川崎
近藤	4		7	馬場
(0)	23	PT	24	(3)

〔審・林　田中〕

決勝

東京25 〔14―11 11―11〕 22神奈川

〔戦評〕キャプテン五島をコントロールタワーとして180cm以上の両フローターで勝負の東京に対し、手渡しパスを駆使して変幻自在の動きからエース小沢で勝負の神奈川、一進一退のまま11―11の同点で前半を終了。
後半立ち上がり、東京が高橋のサイドを決めるや五島が速攻、PTと確実に決めて4点リード。その後、神奈川も小沢のロングを中心にポスト、あるいはサイドから決め懸命に追うが、ノーマークシュートをGK梶山にたびたび止められ、1分前に2点差まで追い上げるが及ばなかった。

〔神奈川〕	得		得	〔東京〕
小野寺	0	GK	0	梶山
鎌田	0	GK	0	小林
山地	6	FP	10	五島
小沢	7		0	金井
松沢	0		4	遠藤
後藤	0		2	田代
西村	4		0	野島
斉藤	0		0	宍戸
太刀川	1		3	島沢
中村	0		4	高橋
熊倉	3		2	佐藤
小俣	1			
(2)	22	PT	25	(1)

〔審・後藤　島田〕

少年女子／兵庫が優勝

1回戦

愛知16 〔9―5 7―8〕 13広島
（愛知選抜）（山陽女高）

〔戦評〕広島が土師の速攻が決まり好スタートに見えたが、その後シュートミスから愛知の速攻を許し4―1とされる。広島もポスト、サイドなどで反撃するが、今一息リズムに乗り切れず9―5と愛知が4点リードして前半を終了。
後半、愛知は塩田のロングを中心にポスト、サイドと幅広い攻撃を見せて着々と加点、広島も土師のロング、カットインなどで2点差にまで詰め寄ったが及ばなかった。

〔広島〕	得		得	〔愛知〕
久保	0	GK	0	柴田
井上	0	GK	0	日高
土師	9	FP	3	飯田
飯田	0		7	塩田
松本	1		3	合田
横田	0		2	山田
許田	0		0	飯田
村実	0		0	武藤
岡本	0		0	山本
今田	1		0	畑中
横山	0		1	西山
川口	0		0	吉本
(1)	12	PT	16	(3)

〔審・大河原　守屋〕

沖縄13 〔8―5 5―6〕 11茨城
（沖縄選抜）（茨城選抜）

〔戦評〕沖縄・八十岡、茨城・冨着を攻撃の軸として立ち上がり15分までは茨城が先行してシーソーゲームを展開したが、茨城の退場を機に沖縄が逆転、8―5と3点をリードして前半を終了。
後半、沖縄がいったんは5点差まで広げたが、茨城も高橋の頑張りで猛反撃、高橋一人で6点をあげる活躍を見せたが一歩及ばなかった。

〔茨城〕	得		得	〔沖縄〕
吉田	0	GK	0	松田
鈴木	0	GK	0	大城
横田	0	FP	0	松田
内藤	1		0	松田
八十岡	1		7	冨着
山本	0		1	大城
門井	1		1	新垣
山下	0		1	喜久里
高橋	7		1	渡名喜
小谷内	0		2	田仲
海老原	1		0	真島
石橋	0		0	粟森
(2)	11	PT	13	(3)

〔審・小友　谷藤〕

滋賀18 〔7―8 8―7 2―0 1―1〕 16神奈川
（彦根商高）（神奈川選抜）

〔戦評〕立ち上がり、切れの良い動きで2連続得点をあげ幸先の良いスタートを切った滋賀であったが、中盤からスローテンポに変えた神奈川のオフェンスが成功し、その後一進一退の展開を見せたが神奈川が1点をリードして前半を終了。
後半に入っても展開は変らず、1点を争う攻防が続いた。神奈川・徳島のミドル、カットインに対し滋賀は吉本を中心に一歩も譲らず延長戦に入る。延長に入って、脚力の差が出て、全員が走った滋賀が連続得点して逃げ切った。

〔神奈川〕	得		得	〔滋賀〕
本間	0	GK	0	川崎
岡田	0	GK	0	北川
木暮	1	FP	5	吉本
徳島	10		3	山尾
松井	1		2	浅居
石井	0		2	井出
徳永	0		3	林
中山	1		0	安藤
森谷	1		3	松山
国府田	1		0	馬場
山下	1		0	小松
松永	0		0	向田
(3)	16	PT	18	(0)

〔審・大河原　守屋〕

北海道16 〔8―6 8―8〕 14福島
（はまなす選抜）（福島選抜）

〔戦評〕福島が先行したが、すぐに北海道が追いつき、その後一進一退の展開を見せ、多彩な攻撃フォーメーションを見せた北海道が

一歩リードして前半を終了。
後半に入って、福島がすぐに同点に追いつくが、北海道が再び一歩リード、一進一退のシーソーゲームの末、前半の点差を守った北海道が辛くも逃げ切った。

	〔福島〕	得	〔北海道〕	得
GK	服部	0	佐藤	0
GK	柳沼	0	白戸	0
FP	灘	0	和歌	2
FP	佐藤	1	佐藤	0
FP	吉村	0	鹿戸	2
FP	小林	1	岡崎	3
FP	伊藤	0	森山	5
FP	渡辺	5	山田	0
FP	松立	3	小島	3
FP	沼	1	三輪	0
FP	岡部	1	長谷川	1
FP	西牧	2	山田	0
PT	(3)	14	(3)	16

（審・小友、谷藤）

千葉 11〔4—7、7—3〕10 宮城
（千葉選抜）（全宮城）

〔戦評〕立ち上がりは両チームとも動きが固くミスが多かったが、5分過ぎから宮城が速攻、フリースローから加点し、中村に頼る千葉を7—4と引き離して前半を終る。
後半、宮城は千葉・中村に1対1のマークをつけるが、かえって千葉のカットイン、ステップシュートを許し、これで攻撃もリズムを崩し、16分までに5点連取される。宮城も終盤、佐藤を軸に一度は同点に追いつくが、千葉・山田がPTを決めてふり切った。

	〔宮城〕	得	〔千葉〕	得
GK	庄司	0	時田	0
GK	伊澤	0	村上	0
FP	佐藤	0	鳥海	0
FP	佐藤	5	山田	3
FP	桜井	1	中村	5
FP	小山	1	村越	0
FP	目黒	1	田上	0
FP	八重樫	0	三枝	0
FP	藤田	2	志村	0
FP	山口	0	竹田	3
FP	笠松	0	永井	0
FP	熊谷	0	大野	0
PT	(2)	10	(3)	11

（審・馬場、浜田）

大分 22〔9—9、13—5〕14 三重
（大分選抜）（三重選抜）

〔戦評〕立ち上がり三重・江川のジャンプシュートで先行したが、すぐ大分が反撃、寒川のサイドシュート、古宅のポストシュートなどで3—1とする。その後大分が先行、三重が追いつくという展開で、9—9で前半を終了。
後半に入り、10分過ぎから大分・松本の速攻、ロングが入り、6点連取して試合を決定づけた。三重も江川のステップ、ロングと追い上げたが、後半足が止まり、リズムに乗れなかった。

	〔三重〕	得	〔大分〕	得
GK	高橋	0	古田	0
GK	内田	0	遠竹	0
FP	江川	7	渡辺	0
FP	中川	4	下郡	0
FP	豊田	1	実川	1
FP	橋爪	0	冨松	3
FP	中	1	上野	0
FP	岡	1	松本	4
FP	渥美	0	徳光	5
FP	野田	0	甲斐	6
FP	石原	0	児玉	0
FP	下澤	0	古宅	3
PT	(2)	14	(2)	22

（審・佐藤、鈴木）

石川 20〔8—4、12—8〕12 愛媛
（石川選抜）（今治南高）

〔戦評〕前半、石川の多彩な攻撃に対し、愛媛は森を中心として必死に反撃を試みるが、逆に攻撃が単調になり、8—4で前半を終了。
後半に入り、愛媛はポスト、サイドなどを使い反撃するが、ペースは変らず、石川が持ち味のサイド、ポスト、速攻などの攻撃を出し完勝。

	〔愛媛〕	得	〔石川〕	得
GK	鳥生	0	馬場	0
GK	中村	0	小前田	0
FP	渡辺	2	畠中	0
FP	加藤	1	角	3
FP	高田	1	東	5
FP	越智	0	清水	4
FP	長野	1	河原	1
FP	森	3	大田	2
FP	池田	0	三安	4
FP	廣瀬	0	土田	0
FP	竹中	0	山崎	1
FP	村上	0	山本	0
PT	(1)	12	(3)	20

（審・馬場、浜田）

兵庫 23〔13—9、10—10〕19 山口
（夙川学院）（山口選抜）

〔戦評〕立ち上がりからお互いにポストシュート、ステップシュートなどで得点し、10分には5—4と兵庫が1点をリード。その後、兵庫はポストへのパスカットから速攻に結びつけて加点、13—9と4点をリードして前半を終了。
後半に入り、一進一退を続けながら20分過ぎに山口も2点差まで追い上げるが、兵庫のフェイントシュートなどで4点差をつけられて敗れる。

	〔山口〕	得	〔兵庫〕	得
GK	岡山	0	松田	0
GK	松原	0	平塚	0
FP	末弘	7	伊藤	2
FP	植田	1	西口	6
FP	重国	0	新村	0
FP	西藤	0	大林	10
FP	梅田	1	田淵	3
FP	白木	0	田口	0
FP	田村	7	岡	0
FP	山本	0	戸高	0
FP	山本	2	江崎	2
FP	中野	1	巽	0
PT	(2)	19	(2)	23

（審・佐藤、鈴木）

2回戦

愛知 22〔11—11、11—5〕16 沖縄

〔戦評〕愛知は速いボール回しからポスト、ミドルシュートで得点をあげる。一方沖縄は、愛知の堅いディフェンスを崩すことができずにいたが、4分過ぎポストから初得点をあげ、その後相手パスミス、シュートミスから速攻で加点、前半を11—11の同点で折り返す。
後半、10分過ぎまで一進一退のゲーム展開を見せたが、15分過ぎから愛知は速攻、セットからの攻撃が冴えて得点を重ねてリードを広げて逃げ切った。

	〔沖縄〕	得	〔愛知〕	得
GK	松田	0	柴田	0
GK	大城	0	日高	0
FP	松田	2	飯田	6
FP	松田	1	塩田	6
FP	冨着	3	合田	2
FP	大城	2	山田	5
FP	新垣	0	飯田	1
FP	喜久里	2	武藤	1
FP	渡名喜	0	山本	0
FP	田仲	0	畑中	0
FP	真島	2	西山	0
FP	粟森	3	吉本	1
PT	(0)	16	(4)	22

（審・倉本、山辺）

滋賀 19〔6—1、13—6〕7 北海道

〔戦評〕15分まで互いに攻め切れぬ状態で、PTも1本ずつミスす

るという双方ともリズムに乗り切れない展開で、ロースコアーながら6−1と滋賀がリードして前半を終了した。

後半も力の衰えぬ滋賀は、滑り出しに連続得点するや左フローター浅居、右からサウスポー吉本とフリースローからのシュートが確実に決まり差を広げる。北海道も速攻、カットインで反撃を見せるが、大差をつけられ及ばなかった。

	〔北海道〕	得	〔滋賀〕	得
GK	佐藤	0	川崎	0
GK	白戸	0	北川	0
FP	和歌	1	吉本	10
FP	佐藤	0	山尾	2
FP	鹿戸	0	浅居	0
FP	岡崎	0	井出	3
FP	森山	5	林	0
FP	山田	0	安藤	0
FP	小島	0	松山	3
FP	三輪	1	馬場	0
FP	長谷川	0	小松	1
FP	山田	0	向田	0
PT	(1)	7	(3)	19

（審・中島・高野）

千葉 24（12−9, 12−11）20 大分

〔戦評〕千葉は、ワンフェイントからのパスを生かしてカットインプレーやポストプレーなどすばらしい攻撃力を見せてくれた。大分もキープ力のあるシュートで同様のプレーを披露してくれた。両チームとも個人的にすばらしい技術をもっており、高校女子としてはレベルの高い試合であった。走り勝ちの千葉が勝利を得た。

	〔大分〕	得	〔千葉〕	得
GK	古田	0	時田	0
GK	遠竹	0	村上	0
FP	渡辺	0	鳥海	5
FP	下郡	1	山田	1
FP	実川	0	中村	9
FP	富松	1	村越	4
FP	上野	0	田上	0
FP	松本	8	三枝	0
FP	徳光	5	志村	0
FP	甲斐	2	竹田	5
FP	児玉	0	永井	0
FP	古宅	3	大野	0
PT	(1)	20	(2)	24

（審・山辺・倉本）

兵庫 16（9−6, 7−6）12 石川

〔戦評〕前半、兵庫はすばやいパスのセットオフェンスからロングを中心に攻めるのに対し、石川は堅い守りから速攻で対抗した。しかし、21分から速攻からPTにつながった3連続ミスが痛く、9−6と兵庫がリードして前半終了。

後半、9分までに7−14とリードされた石川は速攻で懸命に追い上げ、18分には3点差としたが、兵庫GK松田の再三の好守にあい追いつくことができなかった。

	〔石川〕	得	〔兵庫〕	得
GK	馬場	0	松田	0
GK	小前田	0	平塚	0
FP	畠中	1	伊藤	3
FP	角	1	西口	5
FP	東	4	新村	0
FP	清水	3	大林	3
FP	河原	0	田淵	2
FP	大田	1	田口	0
FP	三安	2	岡	0
FP	土田	0	戸高	0
FP	山崎	0	江崎	3
FP	山本	0	巽	0
PT	(1)	12	(3)	16

（審・高野・中島）

準決勝

滋賀 19（8−8, 11−7）15 愛知

〔戦評〕愛知・山田、滋賀・吉本のロングの打ち合いでスタート、15分までに愛知は飯田、滋賀・吉本の正確なロングなどで7−6。その後一進一退の展開が続き、8−8の同点で前半を終了。

後半も全く互角の展開でスタート、中盤愛知退場の間に滋賀が3点のリードを奪い、そのままリードを保って逃げ切った。

	〔愛知〕	得	〔滋賀〕	得
GK	柴田	0	川崎	0
GK	日高	0	北川	0
FP	飯田	8	吉本	8
FP	塩田	2	山尾	3
FP	合田	1	浅居	3
FP	山田	2	井出	2
FP	飯田	0	林	1
FP	武藤	2	安藤	0
FP	山本	0	松山	2
FP	畑中	0	馬場	0
FP	西山	0	小松	0
FP	吉本	0	向田	0
PT	(4)	15	(1)	19

（審・江成・小笠原）

兵庫 19（12−5, 7−7）12 千葉

〔戦評〕兵庫はコントロールタワー大林がフェイント、ローリング速攻と自在に動き回り、両フローター、両サイド、ポストが巧みにからんでの攻めで着実に得点する。一方千葉は、フェイントからのカットイン、ローリングと最終的にはポストとサイドを使う攻めながらもディフェンス力、身長ともに勝る兵庫を攻め切れず、12−5で前半を終了。

後半、千葉はフォーションを駆使し、速攻、PTと追い上げ、互角のゲームをするが、ことという時にシュートミスが重なり、点差を縮めることができないまま19−12で兵庫が制した。

	〔千葉〕	得	〔兵庫〕	得
GK	時田	0	松田	0
GK	村上	0	平塚	0
FP	鳥海	1	伊藤	6
FP	山田	2	西口	5
FP	中村	6	新村	1
FP	村越	1	大林	4
FP	田上	2	田淵	0
FP	三枝	0	田口	0
FP	志村	0	岡	0
FP	竹田	0	戸高	0
FP	永井	0	江崎	3
FP	大野	0	巽	0
PT	(4)	12	(1)	19

（審・後藤・島田）

3位決定戦

千葉 16（8−8, 8−7）15 愛知

〔戦評〕最後まで緊迫した好ゲームの明暗を分けたのは残り1分30秒からだった。それまで両チームとも堅い守り、すばやいパスワーク、出足のいい速攻、タイミングのいいロングで千葉がやや優位だったがほぼ互角。残り1分30秒、愛知は飯田がPTを決め15−15の同点とした。残り1分、千葉はポストからのシュートを鳥海がミス、フォローしたボールも得点に結びつかなかった。しかし千葉は、残り10秒の中央からのフリースローフォーメーションがようやく決まり辛くも逃げ切った。

	〔愛知〕	得	〔千葉〕	得
GK	柴田	0	時田	0
GK	日高	0	村上	0
FP	飯田	2	鳥海	5
FP	塩田	3	山田	0
FP	合田	4	中村	6
FP	山田	5	村越	0
FP	飯田	1	田上	1
FP	武藤	0	三枝	1
FP	山本	0	志村	0
FP	畑中	0	竹田	3
FP	西山	0	永井	0
FP	吉本	0	大野	0
PT	(3)	15	(0)	16

（審・山辺・錦織）

決勝

兵庫 15（7−7, 8−7）14 滋賀

〔戦評〕立ち上がり元気のない兵庫に対し滋賀は吉本、山尾のロングなどでリードした。10分まで無得点だった兵庫は、江崎のフリースローからのロングが決まってから波に乗り、大林がよく走って7−7と追いついた。

後半も常に滋賀がリード、15分、22分に同点にされてもすぐ吉本、山尾のシュートでリードを奪う。しかし、兵庫は残り1分に三度目の同点に追いつき、残り19秒、岡のサイドシュートで鮮やかに逆転勝ちを収めた。

	〔滋賀〕	得	〔兵庫〕	得
GK	川崎	0	松田	0
GK	北川	0	平塚	0
FP	吉本	4	伊藤	1
FP	山尾	5	西口	1
FP	浅居	0	新村	0
FP	井出	0	大林	5
FP	林	2	田淵	1
FP	安藤	0	田口	0
FP	松山	3	岡	1
FP	馬場	0	戸高	0
FP	小松	0	江崎	5
FP	向田	0	巽	1
PT	(0)	14	(0)	15

（審・江成・小笠原）

ヤロスラフ・ムラッツ（チェコスロバキア）のハンドボール（その1）

オリンピックソリダリティー講習会より



指導方法委員会

委員　村松 誠、杉森弘幸、三輪一義

ゴールキーパーのトレーニング（実技）

オリンピックソルダリティー講習会より

5月30日の午後の部でゴールキーパーのトレーニングの実技がJUKI体育館で行われた。実技は、東海大学と国士館大学、順天堂大学のゴールキーパーがデモンストレーターとなった。

実技に先立ち、ムラッツ氏は次のように述べられた。

「ゴールキーパーは特別なポジションであり、特別なタイプである。普通のタイプではないが、決してネガティブという意味ではない。個性の強いポジションということであり、常に一人で個人プレーをするという意味で特別である。ゴールキーパーは、チームのために自分を犠牲にしてボールを抑えることが必要であり、ゴールキーパーのタイプはチームに反映する。このようなことからゴールキーパーのトレーニングは重要である。

今までのトレーニングはチームから離れてすることが多かった。ウォーミングアップの後から練習に入ってくる。ただ単にシュート練習も実戦的なものではない。最近ではアシスタントコーチがいて、ゴールキーパーのトレーニングをしているが、現在ではコートプレーヤーと一緒に複合したトレーニングがつくられている。

今日はいくつかのトレーニングを紹介する。」



I．ボールを使ったゴールキーパーのトレーニング

①ドリブルをしながら進み、ボールを上に投げ上げる。投げ上げたらすぐに床に手をつき、落ちてくるボールをノーバウンドでキャッチする（図1）。床に手をつくかわりに、長座、腕立て姿勢、前転、後転などのバリエーションがある。ミスをしたら腕立て伏せを5回

図の説明

△ ――攻撃プレーヤー
△ ――ボールを持った攻撃プレーヤー
● ――ゴールキーパー
○ ――ディフェンス
…… ――パスのコース
→ ――プレヤーの動き
――シュート
○ ――ブロック

やらせる。
②ボールを二つ使い、交互に投げ上げノーバウンドでキャッチする（図2）。
③ボールを同時に投げ上げ、自分の前で手をたたき、落ちてくるボールをノーバウンドでキャッチする（図3）。これには手を前と後でたたくとか、前―後―前と3回にするとか、床に手をついてから手をたたく（図4）などのバリエーションがある。
④両手で二つのボールを同時にドリブルする。同じリズムと交互にとする（図5、6）。
⑤二つのボールを片方は前から、もう一方は後ろから投げ上げ、それぞれ逆のボールをキャッチする（図7）。
⑥ボールを一つは手に持ち、一つは下に置く。手に持ったボールを投げ上げ、すぐに下のボールを拾い、落ちてくるボールをノーバウンドでキャッチする（図8）。キャッチの後、交互に投げ上げる。
⑦二人で行なう。6番と同じようにボールを投げ上げ、もう一つのボールを拾うが、拾ったボールはすぐに相手にパスする。落ちてきたボールも同様にノーバウンドでキャッチし、直ぐ相手にパスする。パスを受け取った者はボールをすぐに投げ上げ、次にきたボールを返球して落ちてくるボールをノーバウンドでキャッチする（図9）。このような練習は、毎日毎日の練習の中で監督、コーチ、プレーヤーが新しいものを考えればよい。
⑧ボール3個のキャッチボール。
⑨次は体操用マットを使用して

図1

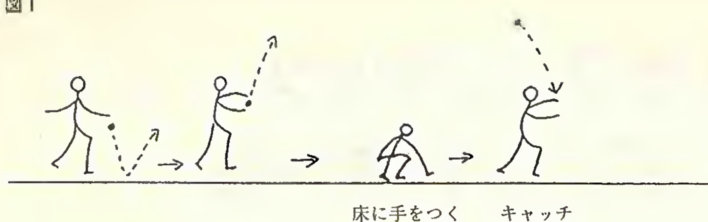


図2　図3

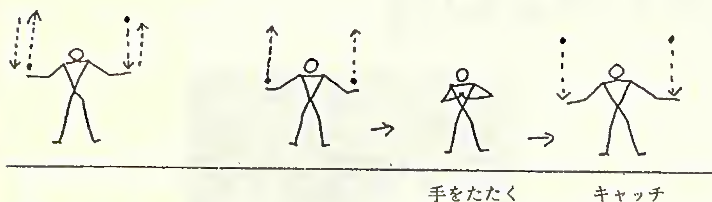


図4

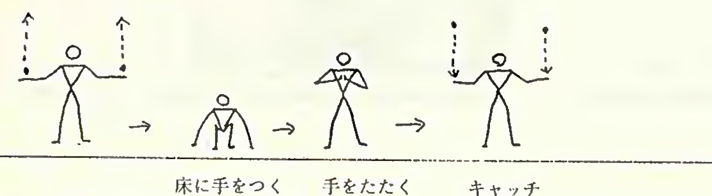


図5　図6　図7

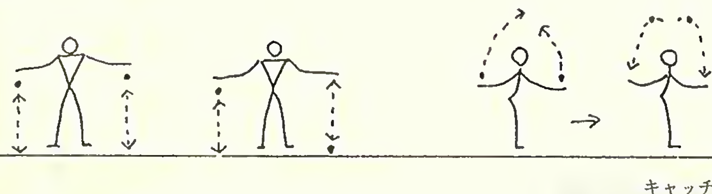


図8

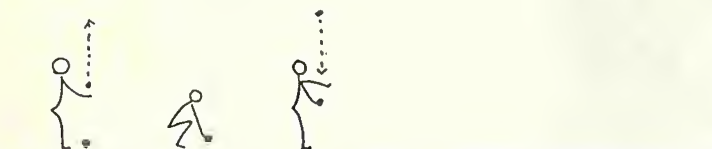
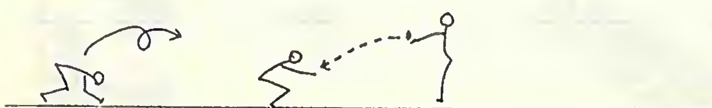


図9



図10



行なう。前転をしてコーチからのボールをキャッチする（図10）。常に正面だけでなく、少し左右に投げる。同じく2回転して行なう。一回転づつキャッチしてはボールを返す。同様に後転でも行なう。同じように起き上がった時に足でキーピングをする（図11）。

⑩馬飛びしてボールをキャッチ。コーチは、足が床につく前に空中でキャッチさせることが重要である（図12）。キャッチしたボールは空中で返す。着地した後、前(後)転してまたキャッチする。

⑪ボールを持って、ミニトランポリンで高くジャンプ（図13）。同様にジャンプし、空中でボールを投げ上げ、着地する前にキャッチする（図14）。

⑫次はボールなしで飛び出し、コーチから投げられたボールを空中でキャッチ、パスする（図15）。パスには、バックパスも使う。着地の後前転してキャッチする（図16）。

⑬仰向けに寝て、上体を起こしてコーチからのボールをキャッチする（図17）。

⑭うつ伏せに寝て、上体を反らしてボールをキャッチする（図18）。だんだんパスする位置を高くする。

⑮横向きに寝て、ボールをキャッチすぐ（図19）。コーチ2人の間に横向きに寝て、キャッチ、パス、向きを変えるを繰り返す（図20）。

⑯横向きに寝て、足でボールを止める（図21）。

⑰うつ伏せに寝て、ボール2つで交互にキャッチボール（図22）。

⑱うつ伏せに寝て、ボール2つを使い、一つは手でキャッチボール、もう一つは足で止める（図23）。

⑲ゴールの前に長座してキーパー練習（図24）。ゲームと同じ早いボールで行なう。

⑳長座でボールを投げ上げ、投げ上げたらコーチからのシュ

図11

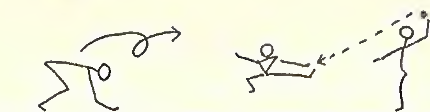


図12

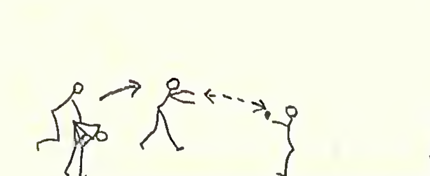


図13

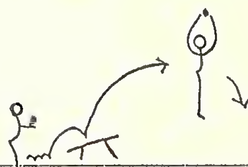


図14

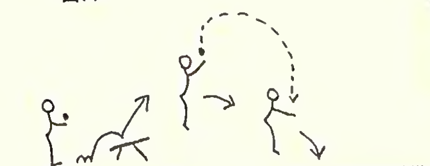


図15

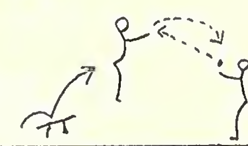


図16

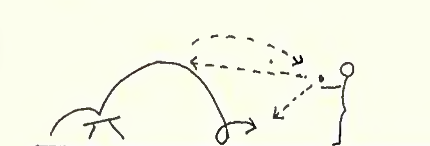


図17

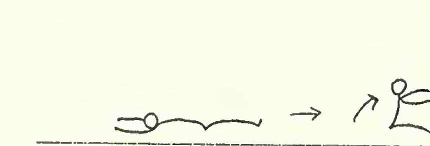


図18

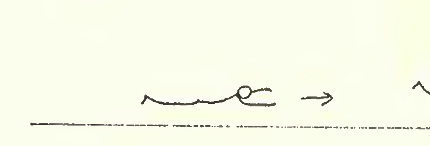


図19



図20



図21

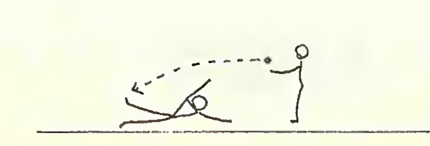


図22

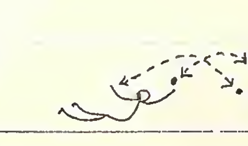


図23



図24

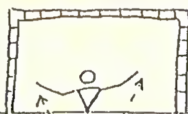
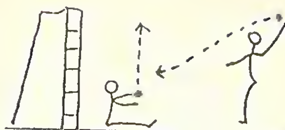


図25



ートをキーピングして落ちてくるボールをノーバウンドでキャッチする（図25）。

㉑長座でボール2個でキーピング。同様にそんきょの姿勢でも行なう。

㉒キーパーはゴール前に立ち、コートプレーヤーはそれぞれボールを持ち、順番にキーパーに向かって投げる（図26）。最初は馴せるために正面のボールをキャッチする。次にシュートのコーナーを決め（右上か左上）実際のシュートを止める。

㉓両45度にシューターは並び、交互にシュートを打つ。シュートは一か所に、たとえば右45度は左上、左45度は右上だけというように決めて行なう（図27）

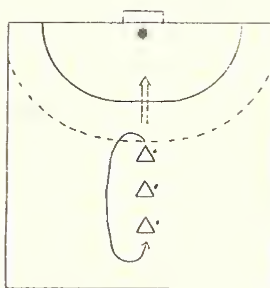


図26

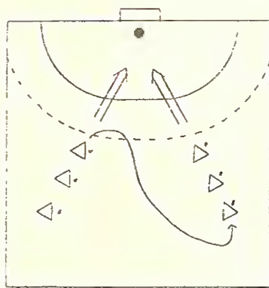


図27

㉔両45度に分かれてパスからのシュートであるが、パスは必ずシュートフェインとから行なう。パスした後はすぐにホームポジション（最初にいた基本の位置）に戻り、すぐ次のシュートを打つ（図28）。シュートを正確に打ち、打つ距離を守ることが大切である。

㉕ゴールの両脇にいるコーチからボールを受け取り、すぐ返した後、逆コーナーに打たれたシュートを止める（図29）。コーチはキーパーをゴールポストまで動かすことが大切である。これを交互に行なう。

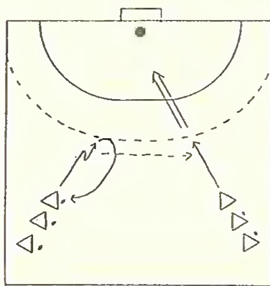


図28

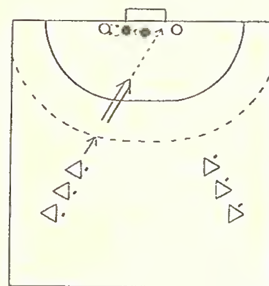


図29

㉖二人が同時にシュートフォームをつくり、どちらか一方だけがシュートを実際に打つ（図30）。事前にどちらがシュートを打つか決めておき、1、2、3とタイミングを合わせてフォームをつくる。

㉗両45度とセンターの3ポジションにシューターを配置し、両45度は前と同じように同時にシュートに入りどちらかが打つ。打ったらすぐ後センターがシュートを打つ（図31）。以上はシュートを上のコースに限定して、ステップシュートで行なう。

ゴールキーピングをする時

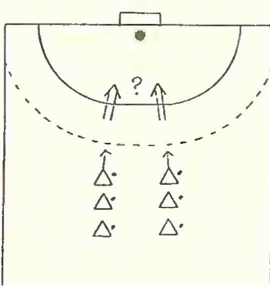


図30

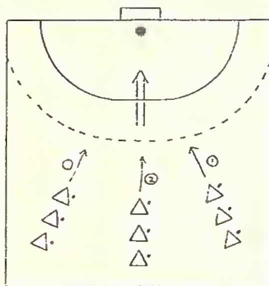


図31

には、特に女子はいろんな動きが必要である。

㉘両足にボールをはさみ、ジャンプしてボールを前に上げる。上げたら、足、膝、頭などでボールつきをする（図32）。

㉙同様に足にボールをはさみ、ジャンプしてボールを後ろに上げ、ノーバウンドでキャッチする（図33）。サッカーの練習も良いものである。特に準備の時期に我々はよく行なう。

㉚ゴールの前でそんきょの姿勢になり、下のキーピングを行なう（図34）。最初は片方だけで行ない、手を添えることが大切である。

㉛正座をして同様に下だけのキーピングを行なう（図35）。

㉜後ろに転がって、起き上がってキーピングをする（図36）。コーチは足に体重がかかった時にボールを投げることが大切である。同様にして、後ろ向きから転がってから、前転、後転からも行なう。

㉝ゴールにぶらさがって足でキーピングをする（図37）。

㉞22番と同じ（図26）。フリースローラインから下だけで行なう。

㉟両45度とセンターにシューターを配置し、センターがシュートをねらってから両45度に交互にパスを出し、45度からシュートする（図38）。

㊱両45度にポストを2人と、センターにシュートを配置し、センターがシュートをねらってからポストにパスをし、ポストからシュートする（図39）。シュートは交互に行ない、対角線上の下に打つ。

㊲両45度ポストの位置からボー

図32

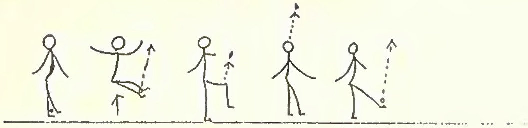


図33

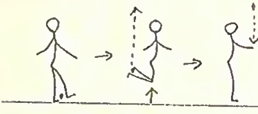


図34

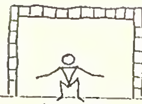


図35

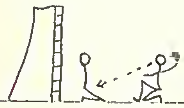
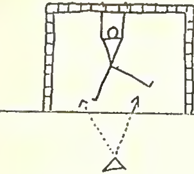


図36



図37



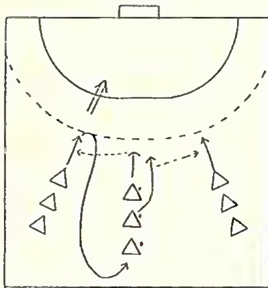


図38

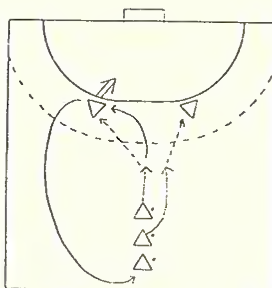


図39

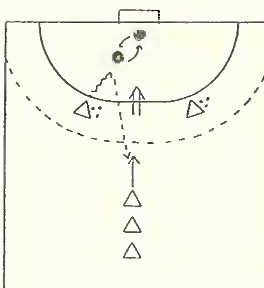


図40

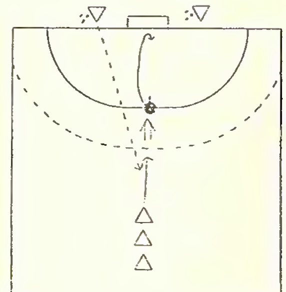


図41

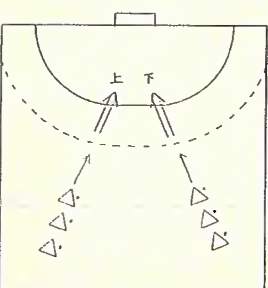


図42

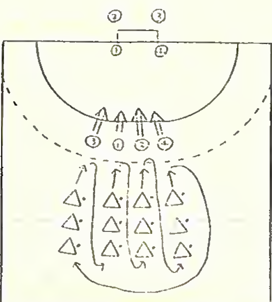


図43

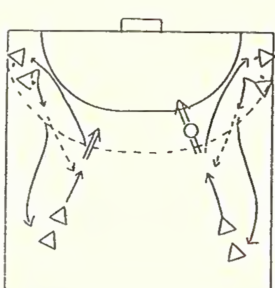


図44

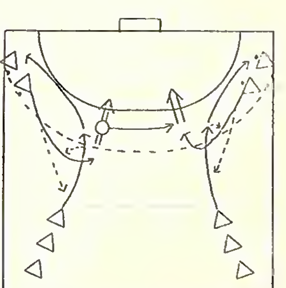


図45

ルをキーパーに転がす。キーパーは前に出てボールを拾いすぐにセンターにボールをパスする。パスした後キーパーはホームポジションにすぐに戻り、ボールを受け取ったセンターからのシュートをキーピングする（図40）。

㊳キーパーはゴールエリアラインにゴールに向かって立ち、ゴール脇のコーチから出されたボールを見てホームポジションへ行く。センターのプレーヤーはボールをキャッチしたらすぐにシュートを打つ（図41）。同様に前向きで立ちボールが見えたらバックしてキーピングを行なう。

㊴両45度から、打つコーナーを決めて練習する。たとえば右45度が右上、左45度が左上というように対角線で行なう（図42）。

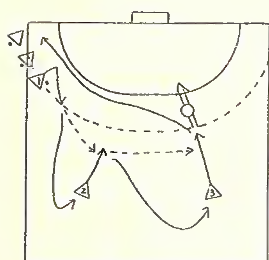
㊵フローターの位置に4ポイントを置き、順番に打つコーナーを決めてシュートする（図43）。

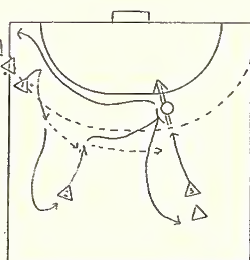
Ⅱ．以上はゴールキーパーのトレーニングであったが、次からはゲームの状況に合った、ゲームのことを考えてコートプレーヤーと一緒に行なう練習である。

㊶サイドプレーヤーがシュートコースに入りながら45度にパスを出し、45度からシュートを打つ（図44左）。同様にしてディフェンスをつけて行なう（図44右）。

㊷サイドからボールを出し45度とクロスしてシュートを打つ。打ったら次は逆サイドから始める。ディフェンスはその都度動いてシュートカットをする（図45）。パスの後に出てくるシュートに対してキーパーが反応することが大切である。一つの段階を追っている。

㊸片方のサイドと両45度にシューターを配置する。番号はパスの動く順番である。パスが終わったらすぐにパスしたポジションへ動いて次のプレーをする（図46）。シュートはサイドハンドシュートかアンダーハンドシュートで行なう。また、パスはシュートフェイントから行なう。


図46

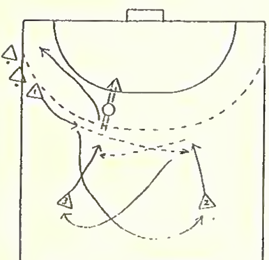

図47

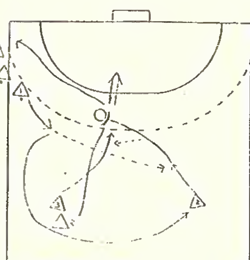
㊹前と同じであるが、2番のプレーヤーはパスの後ブロックに行く（図47）。

㊺サイドから逆45度へパスを出す。そこからまたその逆へパスを戻してシュートする（図48）。形に捕われずキーパーが反応しなければシュートをすることが大切である。

㊻前と同じ形であるが、2番のプレーヤーはパスの後ブロックに行く（図49）。

㊼45度にパスをしたサイドはすぐにブロックに行く。45度は逆45度にパスを出しそこからシュートする（図50）。

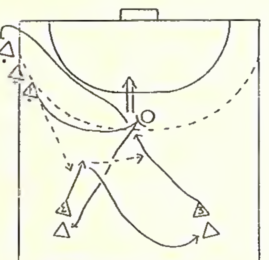

図48

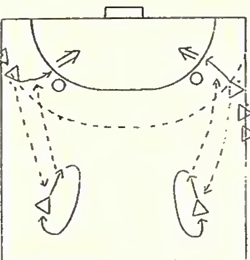

図49

練習の中でいろんな形をいろんな方法で変化させることが大切である。キーパーだけでなくチーム全体にとっても大切である。

これまではフローターのポジションからの練習であったが、次はサイドのポジションからのシュートを行なう。サイドのプレーヤーがボールを持って注意することは、ラインクロスをしないようにゴールエリアラインとの間隔を置くようにポジションを大切にすることである。

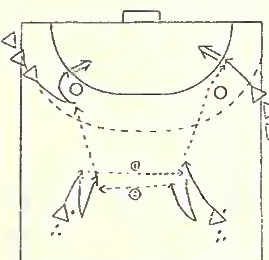
㊽サイドからボールを出し45度のプレーヤーがシュートをねらってサイドに返しシュートする（図51）。このとき45度のプレーヤーは色々と考えなければいけない。たとえば、サイドプレーヤーがボールを仰えにきて、切り返してシュートに行くことなど（図52）。常にいろんなバリエーションを考えなければいけない。実際のゲームと同じように。

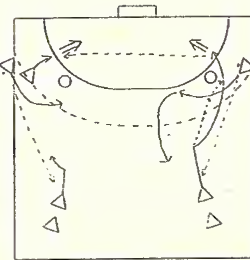

図50


図51

㊾48番と考え方は同じであるが、パスの出し方が違う。逆45度からボールを出しサイドへパスをしてシュートする。パスはそれぞれシュートをねらってから行なう（図52）。

㊿サイドからボールを出し45度がクロスをしてサイドシュー


図52


図53



トを打つか、逆サイドにパスを送る。逆サイドシュートで1回が完結であるが、すぐに最初の逆サイドから同じ事を交互に繰り返す（図53）。

51 次はフロターとサイドを交代でシュートを打つ。まずサイドからボールを逆45度に出しロングシュートを打つ。シュートを打ったらすぐ45度からサイドにボールを出しサイドシュートを打つ。ディフェンスはそれぞれシュートを防ぎにいく（図54）サイドを交代しても行なう。

52 同様にサイドとフローター交代でシュートを打つがパスーシュートが終わったらポジションを交代する（図55）。

53 まず45度からサイドにパスを出しシュートする。その後すぐにサイドから次のプレーヤーがボールを出し、45度からシュートを打つ（図56）。両サイドで行なう。

54 次はサイドとポストからのシュートである。センター、両45度、サイドとポストを図のように配置し、まずセンターからボールを出し45度からポストへパスしてシュートする。次に次のセンターから逆45度にパスを出しサイドとクロスしてシュートを打つ（図57）。パスした後はそれぞれパスしたポジションへ移動する。

55 3つのプレーを順番に行なう。1番目はセンターがシュートモーシッンをしてから45度へパスし、45度で1対1を行ないシュートする。2番目はセンターから1番目と逆サイドへパスし、サイドのプレーヤーはポストとクロスして、ポストのプレーヤーがサイドからシュートする。3番目は同方向の45度にパスし、45度とクロスしてリターンパスを受けてロングシュートを打つ（図58）。シュートを打ったプレーヤーはセンターに戻り、パスしたプレーヤーはそれぞれパスした先のポジションへ移動する。

以上はチェコでやっている1つのゴールキーパーのトレーニングである。これによってチェコでは必ず良いゴールキーパーが生まれている。自分のチームで続けていけば、ゴールキーパー、ディフェンス、プレーヤーの流れがスムーズに行くようになるでしょう。

以上がゴールキーパーのトレーニングの内容です。

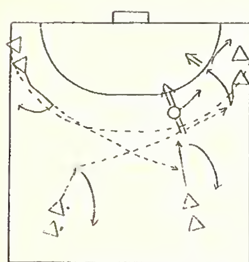


図54

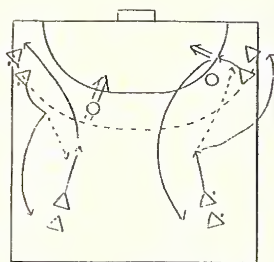


図55

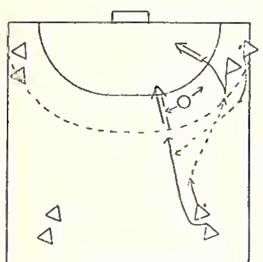


図56

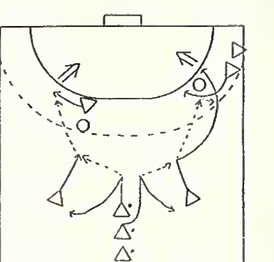


図57

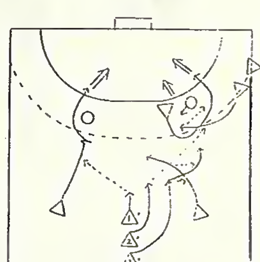


図58

第16回全国高専選手権大会

豊田が初優勝を飾る

大会成績

1回戦

岐阜 24（12－9、12－8）17 東京

呉 28（17－9、11－10）19 明石

育英 22（12－7、10－4）11 秋田

沼津 39（21－4、18－2）釧路

2回戦

八代 22（12－5、10－12）17 岐阜

豊田 31（17－13、14－10）23 呉

石川 15（8－6、7－4）10 育英

沼津 31（17－12、14－6）18 大阪府立

準決勝

豊田 20（13－8、7－6）14 八代

沼津 15（10－7、5－7）14 石川

決勝

豊田 25（11－9、14－8）17 沼津

大会を終えて

㈶日本ハンドボール協会と㈳全国高等専門学校体育協会の主催による第16回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会が、静岡県ハンドボール協会と沼津工業高等専門学校の主管のもとで、静岡県の三島市と沼津市の両市民体育館を用いて開催された。北は北海道から南は九州まで全国8地区の予選を勝ち抜き選抜された12チームが参加し、トーナメント方式により激戦が繰り広げられた。

大会の様子をご紹介する前に、高等専門学校およびそこにおけるハンドボール部の現況について少し紹介させていただく。高等専門学校は、我が国の産業の発展と、科学技術教育のより一層の振興を図るために、高等教育機関として昭和37年度に創設され、中学校卒業程度を入学資格とし5年制の一貫教育を行なう特色ある学校である。15歳（1年生）から20歳（5年生）までの年齢層の学生がおり、高等学校と大学の両者の様相を併せ持っている。低学年から実技教育を豊富に取り入れ、理論を実際面に活かすことのできる技術者を育てるべく実践的技術教育を行なっている。

学校の規模としては平均して1学年4～5クラスで、全学年で800～1000人程度の学生数である。多くの卒業生は企業や官公庁に就職するが、最近は進学する者も増え10～20％の卒業生が主たる国立大学等の3年次に編入学している。

高等専門学校は、現在全国に62校あり、国立が54、公立が4、私立が4校である。そのうちハンドボール部を有するのは36校である。全国を8地区（北海道、東北、関東信越、東海北陸、近畿、中国、四国、九州）に区分し、7月中旬にそれぞれの地区で地区大会を開催しハンドボール部を有する高専の数等に応じて一地区1～3校の代表校が全国大会に選抜される。また、当年度の主管校も全国大会の出場資格が与えられ、総勢13校が全国大会に集まる。本年度は、北海道地区（釧路高専）、東北地区（秋田高専）、関東信越地区（育英高専、東京高専）、東海北陸地区（豊田高専、岐阜高専、石川高専）、近畿地区（大阪府立高専、明石高専）、中国地区（呉高専）、四国地区は不参加、九州地区（八代高専）および主管校（沼津高専）の12校が本大会に出場した。



1回戦の明石対呉の試合

開会式は8月25日午前9時より三島市民体育館に於て出場12チームの全選手が参加して行なわれた。昨年度の優勝校（八代高専）、準優勝（富山高専）より優勝杯、準優勝トロフィーが返還され、レプリカが授与された。また、主管校の沼津高専ハンドボール部主将落合久雄君が力強く選手宣誓を行なった。

開会式後、三島と沼津の両体育館に分かれて、第1日目は2回戦までの8試合が行なわれた。序盤は各チームに固さもみられたが、次第に雰囲気にも慣れスムーズな動きになった。勝ち残った4チームが第2日目の準決勝へ進出した。



閉会式で表彰を受ける初優勝を飾った豊田のメンバー

二連覇を目指す八代高専と動きの速い豊田高専、守りの堅い石川高専とシュート力のある沼津高専が準決勝を戦った。八代高専は前半終了間際に1点差まで迫りながらも、後半開始早々に豊田高専の速攻を許し、反撃のムードに水をさされ20－14で敗れ、二連覇の望みは絶たれた。準決勝のもう1試合は、石川高専が左右にボールを回しながら着実に得点し前半を7－5とリードしたが、後半沼津高専はディフェンスを引き締め、ミドルシュート・ポストプレー等により得点し、1点を競う白熱したゲーム展開となり、結局追い上げムードの沼津高専が勝利を手にした。



2回戦の岐阜対八代

豊田、沼津の両高専共に決勝には初の進出で、東海地区同士の決勝戦となった。攻めのキッカケをつかみきれない沼津高専に対し、前半豊田高専は速いパスと速攻で主導権を握り、後半はほぼ互角の試合展開となった。結局前半のリードが試合を左右し25－17で豊田高専が第16代のチャンピオンの座についた。2日間ではあったが暑さを吹き飛ばすほどの爽やかな印象を残して、大会は幕を閉じた。

高専ハンドボール部の活動は年々充実しつつあるが、全国高専の半数強にしかクラブは存在していないのが実状である。今後は高専ハンドボールを益々発展させるためには、新たなクラブの設立および選手強化に力を注がなければならず、ハンドボール協会をはじめ関係各方面のご支援をさらに仰ぐ次第である。

最後に、本大会開催に当たり、多大なご尽力を賜りました日本ハンドボール協会・静岡県ハンドボール協会ならびに関係各位に厚くお礼申し上げます。



準優勝の表彰を受ける沼津

各地の記録から…

東北

国体宮城県予選

（7月12日～16日／スポーツセンター、仙台体育館）

〈成年男子〉

▼1回戦

仙台育英ク 37－21 古川工OB

▼準決勝

宮城教員 23－17 仙台育英ク

東北電力 34－25 宮城野ク

▼決勝

宮城教員 35（16－17、19－15）32 東北電力

〈成年女子〉

▼決勝

青葉ク 29（10－7、19－4）11 古川商ク

〈少年男子〉

▼1回戦

仙台三 22－16 泉松陵

古川工 37－20 泉館山

一迫商 29－14 築館

佐沼 19－13 東北

電子工 18－11 榴ケ岡

仙台二 19－19 宮城広瀬（3PTC2）

宮城工 20－18 古川

仙台南 18－14 古川商

仙台向山 29－11 宮城水産

仙台西 16－14 塩釜

仙台一 26－15 仙台商

仙台 21－12 名取北

▼2回戦

仙台育英 21－14 仙台三

古川工 31－18 電子工

一迫商 21－13 仙台二

仙台東 27－18 佐沼

市立選抜 33－8 宮城工

仙台一 16－13 仙台向山

仙台西 20－16 仙台南

古川選抜 42－9 仙台

▼3回戦

仙台育英 30－17 古川工

仙台東 24－18 一迫商

市立選抜 21－15 仙台一

古川選抜 36－15 仙台西

▼準決勝

仙台育英 31－12 仙台東

古川選抜 23－19 市立選抜

▼決勝

仙台育英 26（15－7、11－12）19 古川選抜

〈少年女子〉

▼1回戦

塩釜女 19－5 飯野川

▼2回戦

聖和 31－5 塩釜女

仙台女商 15－12 宮城広瀬

築館女 10－3 名取北

宮城三女 35－6 仙台西

涌谷 20－4 佐沼

宮城二女 30－8 仙台東

古川女 25－12 宮城一女

古川商 20－5 朴沢女

▼3回戦

聖和 35－4 仙台女商

宮城三女 24－9 築館

涌谷 18－8 宮城二女

古川商 21－7 古川女

▼準決勝

古川商 18－11 涌谷

聖和 27－12 宮城三女

▼決勝

聖和 24（14－9、10－6）15 古川商

東海

第25回東海実業団選手権

（7月2、9日／本田技研体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦

日本耐酸壜 28－17 日本硝子

アイシン精機 38－10 三洋電機

▼2回戦

新日鉄名古屋 32－10 ブラザー工業

豊田合成 29－8 東海理化

大同特殊鋼星崎 27－17 日本耐酸壜

本田技研爽風会 27－17 アイシン精機

▼敗者機

ブラザー工業 23－18 日本硝子

東海理化 24－23 三洋電機

▼3回戦

大同特殊鋼星崎 32－9 新日鉄名古屋

本田技研爽風会 24－19 豊田合成

▼4回戦

大同特殊鋼星崎 28－17 日本電装

トヨタ車体 27－23 本田技研爽風会

▼準決勝

本田技研鈴鹿 28－20 大同特殊鋼星崎

大同特殊鋼 26－12 トヨタ車体

▼決勝

大同特殊鋼 26（12－8、14－4）12 本田技研鈴鹿

〈女子〉

▼リーグ戦

ジャスコA 27（13－6、14－5）11 ジャスコB

ブラザー工業 19（9－6、10－5）11 ジャスコB

ジャスコA 23（11－6、12－9）15 ブラザー工業

〔順位〕①ジャスコA②ブラザー工業③ジャスコB

岐阜県高校総体

（8月22、23日／岐阜南高校）

〈男子〉

▼1回戦

大垣北 13－12 郡上

斐太 18－16 岐阜北

岐阜南 21－10 高山工

中京商 13－12 各務原西

▼2回戦

市岐阜商 29－3 大垣北

岐陽 26－25 大垣工

岐阜東 16－10 加納

各務原 18－6 斐太

岐阜南 18－9 大垣東

県岐阜商 23－6 岐山

可児 18－9 大垣農

岐阜西工 19－12 中京商

▼3回戦

市岐阜商 25－10 岐陽

岐阜東 22－10 各務原

県岐阜商 20－6 岐阜南

岐阜西工 19－8 可児

▼準決勝

市岐阜商 19－11 岐阜東

岐阜西工 16－13 県岐阜商

▼決勝

市岐阜商 23（12－7、11－5）12 岐阜西工

〈女子〉

▼1回戦

養老女商 12－6 富田女

岐山 11－6 大垣農

高山 27－5 各務原

瑞浪 12－7 海津北

大垣南 9－8 岐阜北

県岐阜商 24－1 可児

斐太 10－5 各務原西

本巣 25－4 海津

▼2回戦

養老女商 20－5 岐山

高山 18－2 瑞浪

県岐阜商 28－4 大垣南

本巣 22－4 斐太

▼準決勝

養老女商 15－10 高山

本巣 21－19 県岐阜商

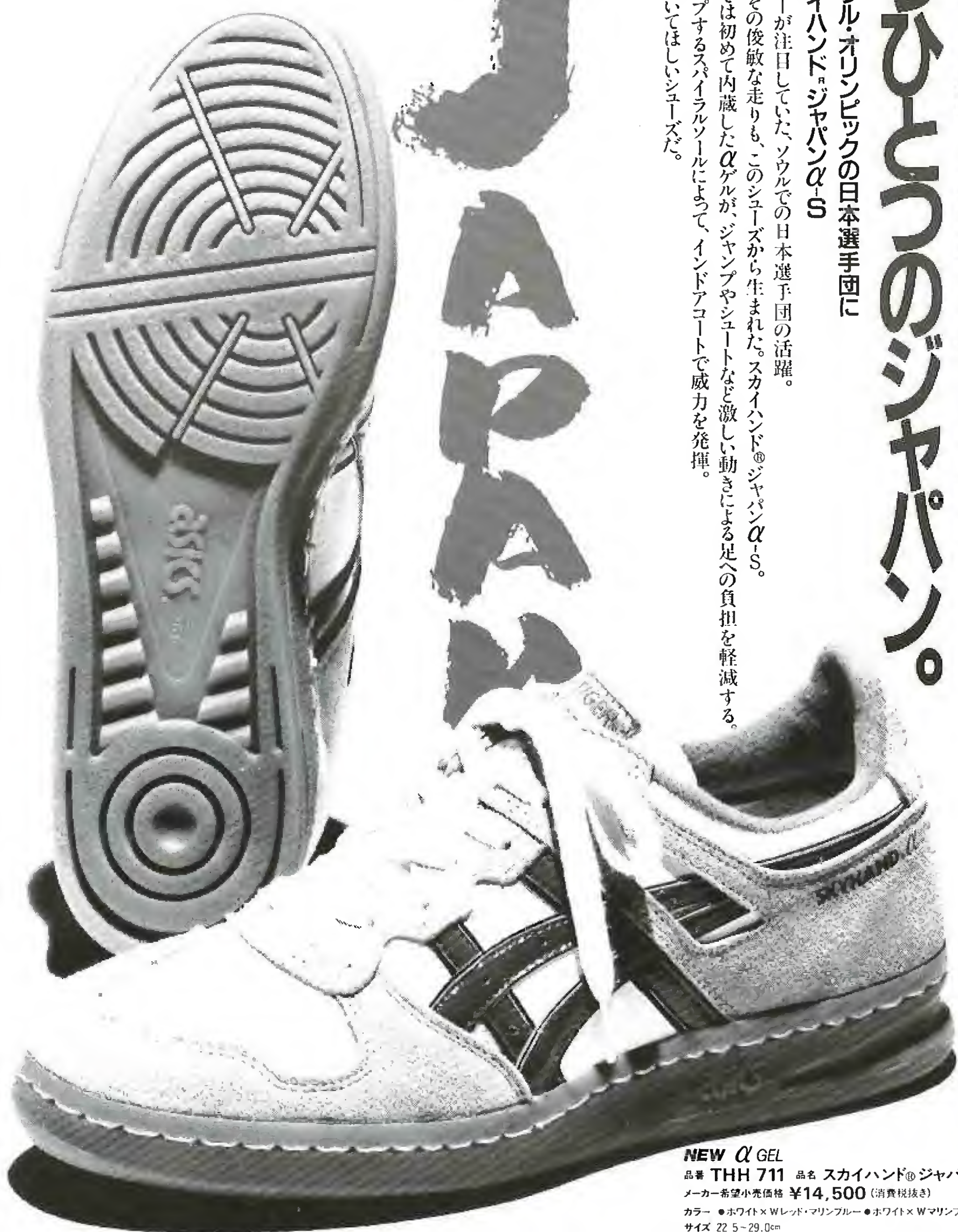
▼決勝

本巣 10（7－2、3－6）8 養老女商

ソウルで活躍した、もうひとつのジャパン。

これが頂点。ソウル・オリンピックの日本選手団に採用されたスカイハンド®ジャパンα-S

すべてのハンドボーラーが注目していた、ソウルでの日本選手団の活躍。その鋭い切れ味も、その俊敏な走りも、このシューズから生まれた。スカイハンド®ジャパンα-S。ハンドボールシューズでは初めて内蔵したαゲルが、ジャンプやシュートなど激しい動きによる足への負担を軽減する。吸いつくようにグリップするスパイラルソールによって、インドアコートで威力を発揮。これは、胸をはって履いてほしいシューズだ。



NEW α GEL
品番 THH 711　品名 スカイハンド®ジャパンα-S
メーカー希望小売価格 ¥14,500（消費税抜き）
カラー ●ホワイト×Wレッド・マリンブルー ●ホワイト×Wマリンブルー・レッド
サイズ 22.5～29.0cm

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』 第二九二号
昭和四十年六月 第三種郵便物認可
平成一年十月二十六日 印刷
平成一年十一月一日 発行
東京都渋谷区
電話 代表（
振替 東京 六一
編集兼発行人 安藤純光
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）